事　業　編

第三　施設の維持管理

≪公益目的事業・収益事業の管理運営≫

公益財団法人における「公益目的事業」として、世田谷区の指定管理者制度の協定に基づき、区立保健センター維持管理運営、がん対策事業、健康増進事業、障害者相談支援事業等及び自主事業である健康教育事業を行い、また公益目的事業を補完するための「収益事業」として保険診療等による検査事業、検体検査事業、料金規程等による事業を行っている。

≪区立保健センター施設・設備等の維持管理運営事業≫

令和６年度から第６期指定管理者として、これまで培った専門性や多職種の連携を活かし、保健医療福祉の全区的拠点における「相談支援」と「区民の健康を守り創造する」機能を担っている。また、区の外郭団体として、「外郭団体将来ビジョン」に示された「役割の最大限発揮する」「区との連携・政策連動」「経営の自主性・自立性向上」の３点に基づき、新たな施策の実現や専門性の向上に努めている。

さらに、コロナ禍により実績が低下した事業の実績回復に務めるとともに、がん相談の拡充、こころのサポーターの養成、高次脳機能障害に係る「うめとぴあ」拠点内での連携強化や出前型の乳幼児発達相談の拡充などに取り組んだ。さらに、働く世代の健康の保持・増進に貢献するため、世田谷区・玉川両医師会と連携し「協会けんぽ生活習慣病予防健診」の実施機関としての指定を受け、令和７年４月より健診を開始した。

加えて、令和６年１月の「能登半島地震」や８月の「南海トラフ地震臨時情報」が発表される中、災害発生時には保健医療福祉総合プラザに区の「災対医療衛生部（医療救護本部）」が設置されることから、令和７年２月に区との間で「災害時における協力体制に関する協定」を締結し、連携・協力関係を明確にした。

区の外郭団体としての使命を強く意識し、区民の健康の保持・増進と福祉のより一層の向上をめざし、高い専門性のもと「工夫を凝らした積極的な事業展開」や「提案型の組織風土の醸成」の取り組みを進めるとともに、保健医療福祉の拠点としての「うめとぴあ」の機能を発揮するため、「拠点内施設相互や地域との積極的な連携事業」を展開し、利用しやすい施設の環境整備を進めている。

≪高い技術の維持に向け保持する施設認定≫

専門性の高い事業を実施するため、専門学会の認定施設として更新を続けることで、レベル維持に努めている。

〇がん検診事業：マンモグラフィ検診施設・画像認定施設

〇検体検査事業：日本臨床細胞学会認定施設

第四　医務課事業

令和 6 年度においては、公益財団法人における「公益目的事業」として世田谷区の指定管理者制度の協定に基づき、がん検診事業、健康増進事業及び自主事業である健康教育事業を行い、公益目的事業を補完するための「収益事業」として、区委託の検体検査事業、保険診療等による検査事業、自主事業として料金規程等による事業を行っている。

Ⅰ　がん対策事業（区指定管理）

1　世田谷区がん検診受付センター

保健センターでは、世田谷区の対策型がん検診等を希望する区民の申し込みや問い合せの総合窓口として「世田谷区がん検診受付センター」を運営している。胃がん検診（エックス線・内視鏡）の他に大腸がん・乳がん・子宮がん・肺がん・B 型 C 型肝炎ウイルス・胃がんリスク（ABC）・前立腺がんの検診等の申し込み受付及び受診票発行等を行っている。

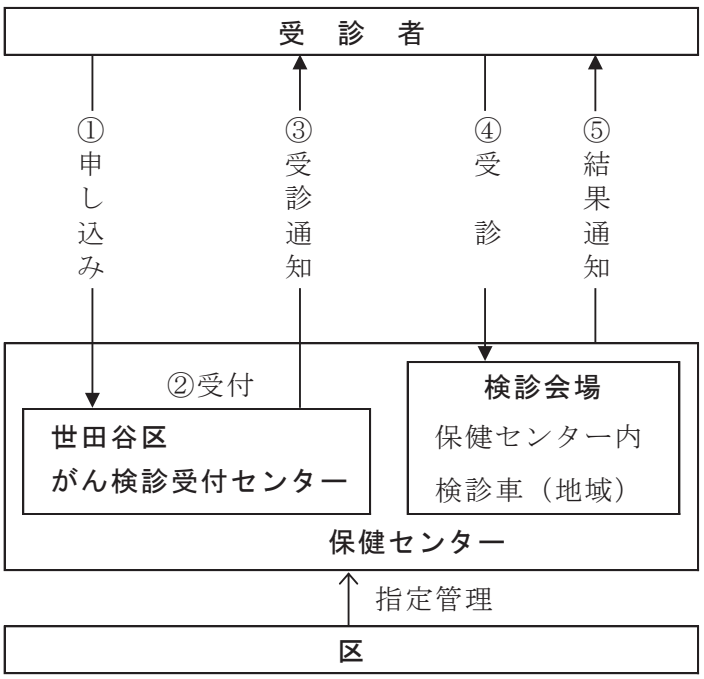
2　胃がん検診

（1）　胃がん（エックス線）検診

世田谷区では 40 歳以上の区民（1 年に 1 回）を対象に保健センター施設内および検診車にて、エックス線撮影による胃がん検診を行っている。

また、結果については二重読影を行った後に、すべて郵送対応で通知しており、要精検者については、地域医療機関との密接な提携のもとに、内視鏡および病理組織検査等の保険診療による精密検査を実施している。

◎胃がん（エックス線）検診実施流れ図



令和 6 年度は、受診者の約 63.9%が公募（一般・広報）による申し込み者である。町会検診も区内全域で実施された。施設内では毎月第 2 第 4 土曜日にも検診を行い 151 回、検診車（1 台）による検診は世田谷区内の総合支所・各種区民施設等で 176 回行われた。

◎胃がん（エックス線）検診　申し込み別受診者状況

区分	申込者数	受診者数	受診率（%）	構成比（%）
一般・広報	2,715	1,905	70.2	63.9
受診勧奨	1,165	846	72.6	28.4
町会	284	231	81.3	7.7
計	**4,164**	**2,982**	**71.6**	**100.0**

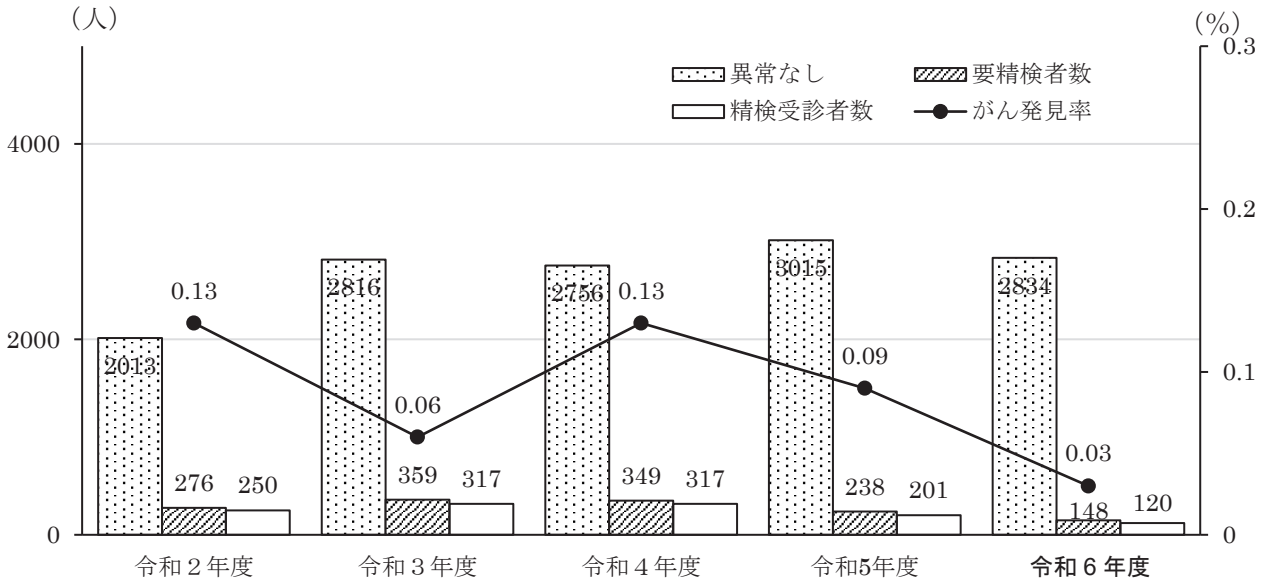
◎胃がん（エックス線）検診　会場別受診者状況

区分	稼働回数	申込者数	受診者数	受診率(%)	構成比(%)
施設	151	2,392	1,480	61.9	49.6
検診車	176	1,772	1,502	84.8	50.4
計	**327**	**4,164**	**2,982**	**71.6**	**100.0**

胃がん（エックス線）検診は年々受診者が減少しており、これは、検診車稼働台数が１台になった事や高齢者の継続雇用による企業検診への移行、安全基準による受診条件を満たせない方の増加、内視鏡検診への移行などが原因と考えられる。

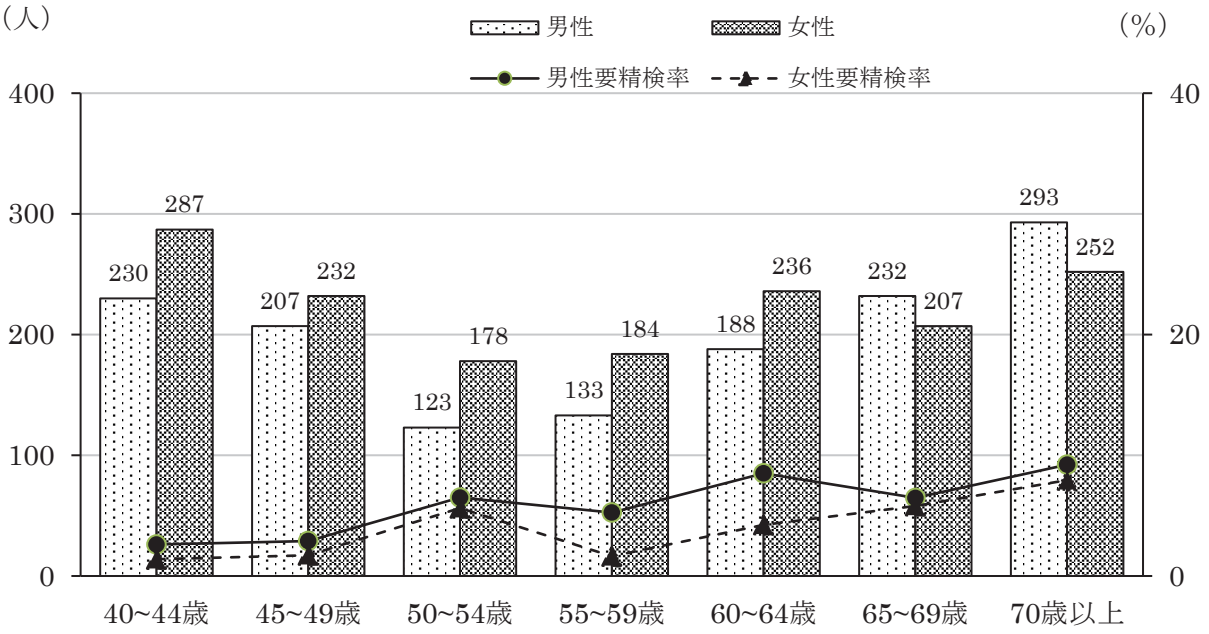
◎胃がん（エックス線）検診　受診者状況の推移

年度	受診者数 A	要精検者数 B（B/A%）	精検受診者数 C（C/B%）	がん発見数 D(食道がん)	早期がん数 E（E/D%）	がん発見率 (D/A%)
令和２年度	2,289	276（12.1）	250（90.6）	3（0）	2（66.7）	0.13
令和３年度	3,175	359（11.3）	317（88.3）	2（1）	1（50.0）	0.06
令和４年度	3,105	349（11.2）	317（90.8）	4（0）	3（75.0）	0.13
令和５年度	3,253	238　（7.3）	201（84.5）	3（0）	2（66.7）	0.09
令和６年度	**2,982**	**148　（5.0）**	**120（81.1）**	**1（0）**	**1　（100）**	**0.03**



◎胃がん（エックス線）検診　男女・年齢別受診者数と要精検率

区分	合計			男性			女性		
	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	受診者数	要精検者数	要精検率(%)
総　数	**2,982**	**148**	**4.96**	**1,406**	**85**	**6.05**	**1,576**	**63**	**4.00**
40～44 歳	517	10	1.93	230	6	2.61	287	4	1.39
45～49 歳	439	10	2.28	207	6	2.90	232	4	1.72
50～54 歳	301	18	5.98	123	8	6.50	178	10	5.62
55～59 歳	317	10	3.15	133	7	5.26	184	3	1.63
60～64 歳	424	26	6.13	188	16	8.51	236	10	4.24
65～69 歳	439	27	6.15	232	15	6.47	207	12	5.80
70 歳以上	545	47	8.62	293	27	9.22	252	20	7.94



＜胃がん（エックス線）検診からの精密検査＞

当センターでの精密検査(内視鏡)の受診者は 7 人で、胃がん発見は 0 人だった。

◎胃がん（エックス線）検診　精密検査男女・年齢別疾病分類（保健センター実施分）

区分	総数	男	女	40~44 歳		45~49 歳		50~54 歳		55~59 歳		60~64 歳		65~69 歳		70 歳以上	
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
受診者数	**7**	**2**	**5**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1**	**1**	**1**	**0**	**0**	**4**
胃がん	**0**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食道がん	**0**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胃潰瘍	**0**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
びらん	**4**	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
ポリープ	**1**	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
胃炎	**1**	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
その他	**1**	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

注）疾病は一人一疾病

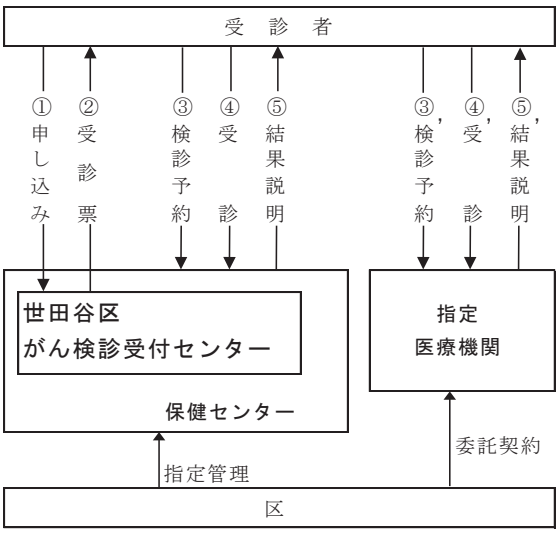
（２） 胃がん（内視鏡）検診

世田谷区では 50 歳以上の区民（２年に１回）を対象に胃内視鏡検診を指定医療機関に委託して行っている。保健センターは、指定医療機関（区内 91 機関のひとつ）として区から委託を受け、胃内視鏡検診を実施しており、受診者には自院読影によるダブルチェックの後に全員対面で結果を説明している。

また、国のガイドラインに則った検診を整備するために、区が設置した「胃内視鏡検診運営委員会」に委員を選出するとともに同委員会の事務局支援にも携わっている。

令和６年度は、37 回の検診を実施し、受診者は 152 人で、がんの発見は１人であった。

◎胃がん（内視鏡）検診実施流れ図



◎胃がん（内視鏡）検診　男女・年齢別受診者状況

区分	合計			男性			女性			がん発見数	
	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	男	女
総　数	**152**	**5**	**3.29**	**67**	**3**	**4.48**	**85**	**2**	**2.35**	**1**	**0**
50～54歳	13	1	7.69	6	0	0.00	7	1	14.29	0	0
55～59歳	13	0	0.00	2	0	0.00	11	0	0.00	0	0
60～64歳	21	0	0.00	8	0	0.00	13	0	0.00	0	0
65～69歳	31	0	0.00	14	0	0.00	17	0	0.00	0	0
70歳以上	74	4	5.41	37	3	8.11	37	1	2.70	1	0

◎胃がん（内視鏡）検診　受診者状況と推移

年度	受診者数 A	要精検者数 B （B／A%）	精検受診者 C （C／B%）	がん発見者数 D （食道がん）	早期がん数 E （E／D%）	がん発見率 （D／A%）
令和２年度	144	12（8.3）	12（100.0）	1（0）	1(100.0)	0.69
令和３年度	147	4（2.7）	4（100.0）	0（0）	0　(0.0)	0.00
令和４年度	169	6（3.6）	6（100.0）	0（0）	0　(0.0)	0.00
令和５年度	156	1（0.6）	1（100.0）	0（0）	0　(0.0)	0.00
令和６年度	**152**	**5（3.3）**	**5（100.0）**	**1（0）**	**0　(0.0)**	**0.66**

3　乳がん検診

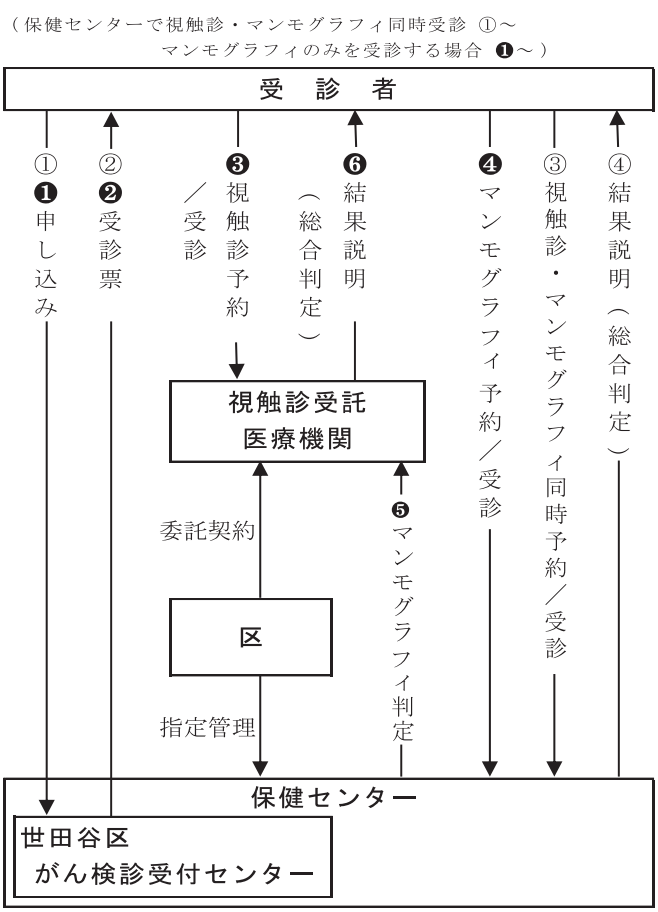
世田谷区では、40 歳以上の女性区民（２年に１回）を対象とし、視触診とマンモグラフィ（乳房エックス線撮影）の併用受診を指定医療機関に委託して行っている。

保健センターでは、視触診を地域医療機関で受けマンモグラフィのみを受診する場合と、視触診・マンモグラフィを同時に行う場合の２つの受診パターンを整えて検診を実施している。

また、日本乳がん検診精度管理中央機構認定の女性診療放射線技師と医師を配置し、施設内で読影認定資格を持つ医師による二重読影体制が取れている数少ない機関となっている。さらに施設としても同機構より施設認定を取得し、質の高い検診体制を維持している。

なお、マンモグラフィにおいて 40 歳代は左右の乳房を各２方向、50 歳以上は左右各１方向の撮影を行っている。

◎乳がん検診実施流れ図



マンモグラフィのみの受診者の読影結果は視触診医療機関へ送付し（総合判定及び結果説明を視触診機関で実施）、視触診同時受診の場合はマンモグラフィと総合判定結果を本人宛に通知するとともに、要精検者には直接医師が説明を行っている。

◎乳がん検診受診状況の推移

区分	受診者数				
	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
マンモグラフィのみ	159	122	106	81	**76**
視触診･マンモグラフィ同時受診	1,009	1,226	1,251	1,275	**1,302**
計	1,168	1,348	1,357	1,356	**1,378**

＜乳がん検診からの判定状況＞

◎マンモグラフィのみ受診者のマンモグラフィカテゴリー分類

区分	マンモグラフィカテゴリー分類						
	受診者数	C1	C2	C3	C4	C5	N
総　　数	**76**	**62**	**10**	**4**	**0**	**0**	**0**
40～44 歳	7	6	1	0	0	0	0
45～49 歳	6	4	1	1	0	0	0
50～54 歳	8	6	2	0	0	0	0
55～59 歳	7	4	2	1	0	0	0
60～64 歳	17	15	0	2	0	0	0
65～69 歳	18	15	3	0	0	0	0
70 歳以上	13	12	1	0	0	0	0

◎カテゴリー分類説明
C1:正常
C2:良性
C3:良性しかし悪性を否定できず
C4:悪性の疑い
C5:悪性
N :読影不能
（C3～C5:要精検対象）

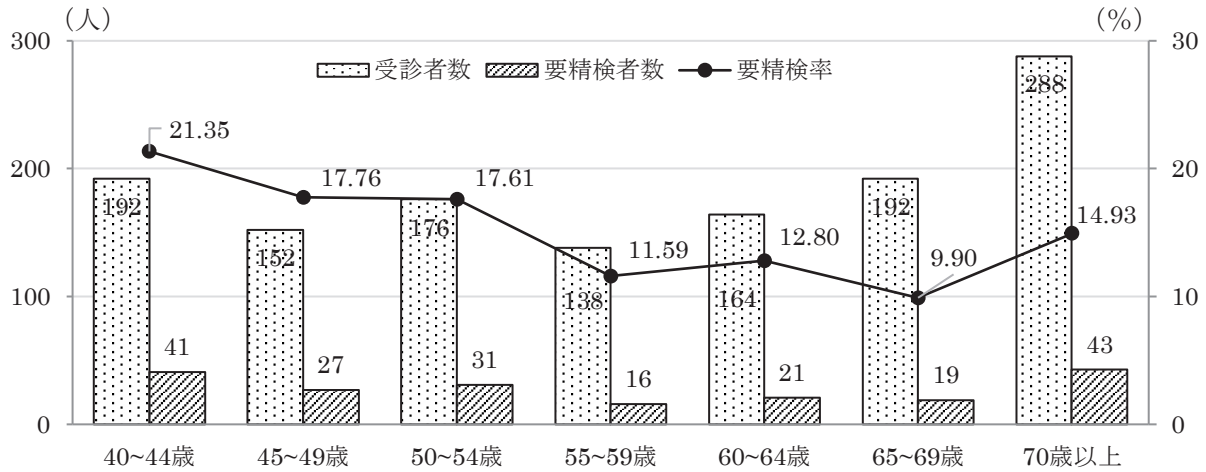
※総合判定は、視触診医療機関が行う。

◎視触診・マンモグラフィ同時受診者の総合判定における要精検状況とカテゴリー分類

区分	合計			マンモグラフィのカテゴリー分類					
	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	C1	C2	C3	C4	C5	N
総　　数	**1,302**	**198**	**15.21**	**874**	**251**	**152**	**20**	**5**	**0**
40～44 歳	192	41	21.35	126	29	33	4	0	0
45～49 歳	152	27	17.76	98	28	25	1	0	0
50～54 歳	176	31	17.61	110	37	25	3	1	0
55～59 歳	138	16	11.59	101	22	15	0	0	0
60～64 歳	164	21	12.80	115	29	16	4	0	0
65～69 歳	192	19	9.90	124	53	14	1	0	0
70 歳以上	288	43	14.93	200	53	24	7	4	0

＜乳がん検診からの精密検査＞

◎視触診・マンモグラフィ同時受診　年齢別受診者数と要精検率



4　がん検診等精度管理

保健センターでは、地区医師会で実施したがん検診の精度管理業務を段階的に拡充していく区の計画にもとづき、５つの対策型がん検診すべての精度管理と胃がんリスク（ABC）検査について集計業務を実施している。

事業項目＼年度		令和６年度			令和５年度		令和４年度
		計画	実績	達成率	計画	実績	実績
胃がん検診（医師会・保健センター）	一次	**10,000 件**	**10,437 件**	**104.4%**	8,600 件	9,889 件	9,974 件
	精密	**1,500 件**	**551 件**	**36.7%**	1,100 件	599 件	688 件
乳がん検診（医師会・保健センター）	一次	**25,000 件**	**20,991 件**	**84.0%**	25,000 件	21,077 件	25,803 件
	精密	**2,150 件**	**1,364 件**	**63.4%**	1,650 件	1,386 件	1,554 件
大腸がん検診（医師会・保健センター）	一次	**50,000 件**	**46,094 件**	**92.2%**	50,000 件	46,244 件	45,654 件
	精密	**2,500 件**	**2,358 件**	**94.3%**	2,500 件	2,443 件	1,699 件
子宮がん検診（医師会実施）	一次	**40,000 件**	**40,364 件**	**100.9%**	40,000 件	38,643 件	36,447 件
	精密	**600 件**	**797 件**	**132.8%**	600 件	569 件	407 件
肺がん検診（医師会実施）	一次	**65,000 件**	**62,172 件**	**95.6%**	65,000 件	59,211 件	55,038 件
	精密	**1,500 件**	**1,282 件**	**85.5%**	1,500 件	1,154 件	769 件
胃がんリスク検査（医師会実施）	一次	**9,500 件**	**4,747 件**	**50.0%**	9,500 件	4,781 件	5,633 件
	精密	**1,000 件**	**453 件**	**45.3%**	1,500 件	434 件	473 件

※医師会実施がん検診精度管理の実績は、令和６年度中に記録処理を行った数である。
（一次検診のデータ取得には、検診日から３か月以上の期間を要する。）

5　がん相談

がん患者とその家族などに対して、がんの不安や在宅療養、医療費軽減などの支援制度、がん患者の就労など各種相談に対応している。また、相談は電話・対面に加えオンラインでも行っている。がんになっても安心して社会とつながりながら治療生活を送れるように、アピアランスケア※に関する相談にも対応している。

※がんの治療に伴う外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケア

（１）がん情報コーナーと「一次相談窓口」

がんに関する書籍やリーフレット等の閲覧ができる「がん情報コーナー」は、平日常時開設している（午前９時から午後５時）。また、予約不要の「一次相談窓口」を設け、相談の申し出があった場合は看護師が傾聴し情報提供や説明・助言などの対応をしている。

アピアランスケアに関する相談の一環とした「がん情報コーナー」ウィッグ見本の他に令和６年度は胸部補整具見本を追加展示し、情報提供や相談に利用している。

（２）がん相談

「対面相談」と「オンライン相談」は看護師による専門相談を第２・４週の土曜日、「電話相談」は木曜日の第１・３週を看護師による専門相談、第２・４週をがん体験者によるピア相談として実施している。

「就労相談」は看護師と社会保険労務士が治療と就労の両立支援として年５回実施し、内地域での「出張相談」は３回実施している。このほか図書館での対面相談も２回実施している。

出張区分	日程	実施場所
就労相談	６月２２日（土）	三茶おしごとカフェ
がん相談	７月２７日（土）	尾山台図書館
がん相談	９月２８日（土）	中央図書館
就労相談	１０月２６日（土）	三茶おしごとカフェ
就労相談	１１月　１日（金）	烏山区民センター前広場

（３）相談件数と相談内容

令和６年度は、一次相談 61 件、対面相談 26 件、電話相談 68 件（専門相談 42 件、ピア相談 26 件）、就労相談６件であった。

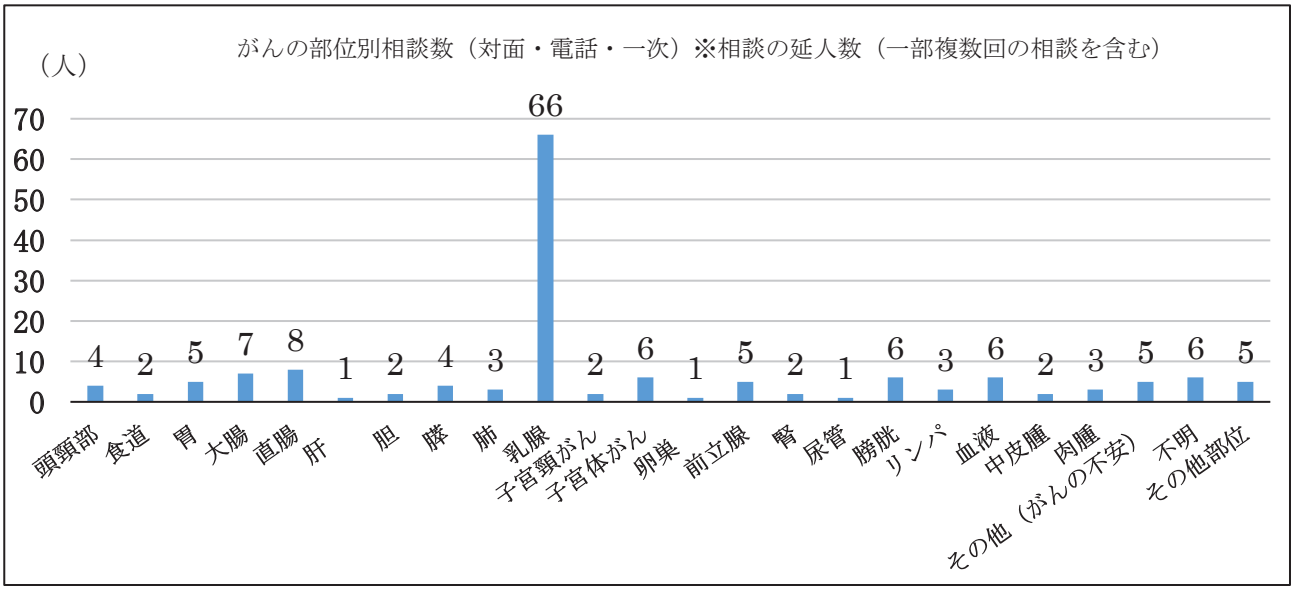
いずれの相談でも患者の男女比は女性が多く、30 代から 80 代以上まで幅広い年齢層であった。利用者の内訳はすべてにおいてがん患者本人からの相談が多かった。がんの種類は乳がんが 66 件と最も多く、次いで直腸がんが８件であった。

（人）

患者内訳	一次	対面	電話
男	12	8	10
女	49	18	58
計	**61**	**26**	**68**

（件）

利用者内訳	一次	対面	電話
本人のみ	31	19	54
家族同伴	5	1	0
家族のみ	25	6	14
計	**61**	**26**	**68**



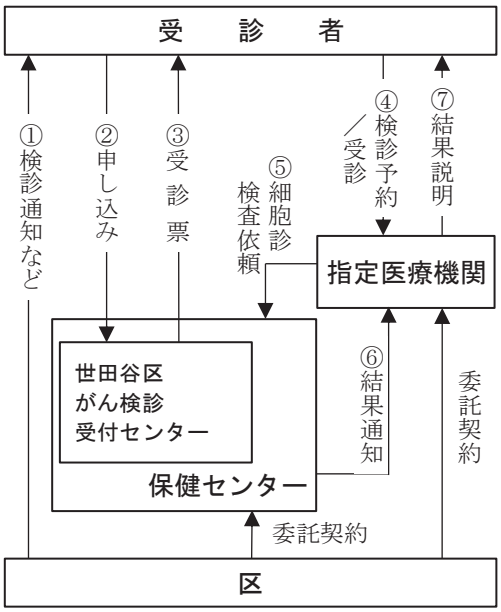
Ⅱ　検体検査事業（区委託）

1　子宮がん検診（頸部・体部）

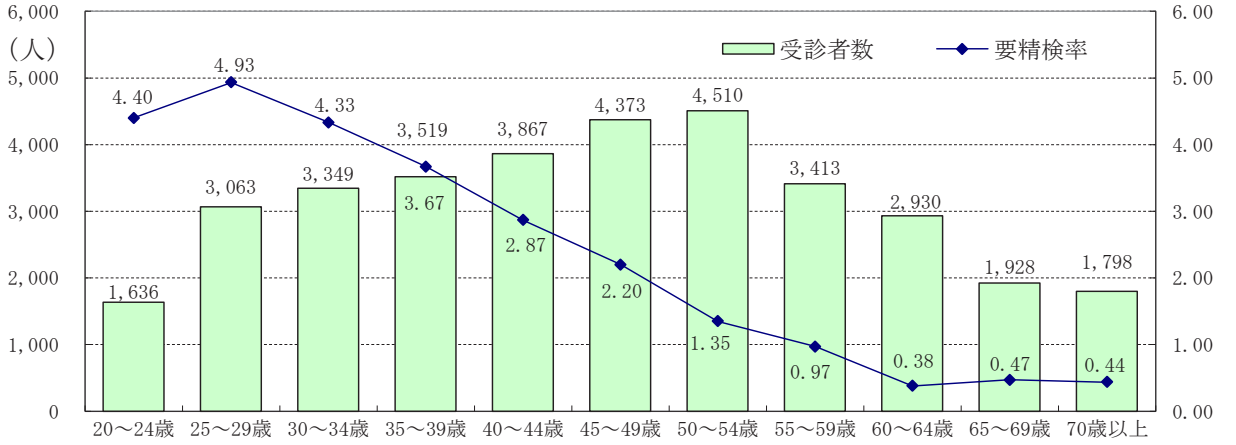
20歳以上の女性区民を対象として、区内指定医療機関（検診実施機関）で問診・視診・細胞診及び内診が行われる。保健センターは区から細胞診検体検査を受託し、検診実施機関で採取・固定された細胞標本の染色を行い顕微鏡下で観察している。検体の顕微鏡検査は日本臨床細胞学会認定の細胞検査士及び細胞診専門医により行われている。

細胞診の結果は標本の適正評価を行い、ベセスダシステムによる分類で精密検査の必要性を決定し、速やかに検診実施機関に通知している。精密検査が必要とされた受診者には、医療機関と連携を取りながら保険診療によるコルポスコープ（膣拡大鏡）や病理組織検査等の精密検査を実施している。

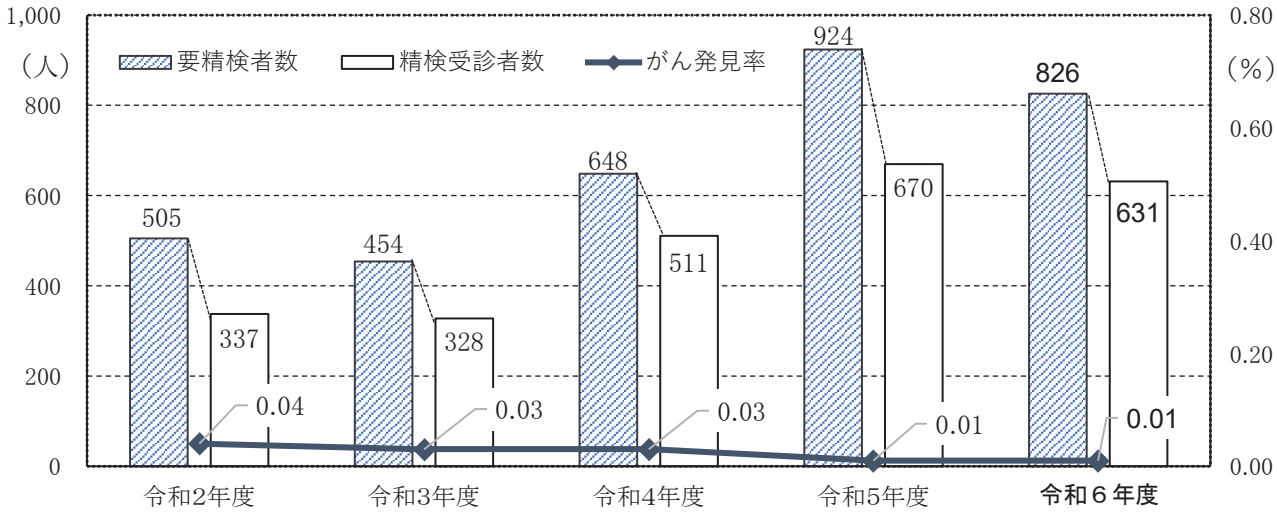
◎子宮がん検診実施流れ図



◎子宮頸部がん検診　年齢別受診者数と要精検率



◎子宮頸部がん検診　精密検査実施状況とがん発見率



◎子宮がん検診 受診者状況と推移

年度	受診者数A		要精検者数B (B／A%)	精検受診者数C (C／B%)	がん発見数D	がん発見率 (D／A%)
令和２年度	頸部	33,153	505 (1.5)	337 (66.7)	14	0.04
	体部	3,519	55 (1.6)	37 (67.3)	8	0.23
令和３年度	頸部	37,995	454 (1.2)	328 (72.2)	12	0.03
	体部	4,044	50 (1.2)	35 (70.0)	7	0.17
令和４年度	頸部	33,809	648 (1.9)	511 (78.9)	9	0.03
	体部	3,737	60 (1.6)	40 (66.7)	6	0.16
令和５年度	頸部	34,618	924 (2.7)	670 (72.5)	4	0.01
	体部	3,739	41 (1.1)	35 (85.4)	5	0.13
令和６年度	**頸部**	**34,386**	**826 (2.4)**	**631 (76.4)**	**4**	**0.01**
	体部	**3,646**	**33 (0.9)**	**29 (87.9)**	**5**	**0.14**

※ 精検結果の把握は翌年度末までの１年間行っており、把握できた追跡調査データは前年度実績に加え修正している。なお、平成30年度より健康増進事業報告にもとづき「がん発見数」から上皮内がん（0期）を除外している。

令和６年度の頸部がん検診受診者数は34,386人で、前年と比べ減少した。細胞診異常と判定された要精検者数は頸部826人で要精検率は2.4%であった。追跡調査による精検受診率は76.4%と低かった。これは、ASC-US 判定後の HPV 検査結果等の結果把握に時間を要し、精検医療機関への紹介後未把握が増えているためと思われ、今後も引き続き把握に努めていく。

要精検率は20歳代4.8%、30歳代は4.0%と高くこの年代から扁平上皮内病変が多く検出された。なお、がん発見数は頸部４人、体部５人で、がん発見率は頸部0.01%、体部0.14%、陽性反応適中率は頸部0.5%、体部15.2%であった。子宮がん検診のがん発見症例の内訳は、頸部腺がん３人、扁平上皮がん１人、体部腺がん５人であった。また、がん発見数から除外された上皮内がん（高度扁平上皮内病変）は５人、上皮内腺がん（高度腺上皮内病変）は２人発見された。

◎子宮がん検診 年齢別受診者状況

区分	頸部がん検診			体部がん検診		
	受診者数	要精検者数 (%)	がん発見数	受診者数	要精検者数 (%)	がん発見数
総数	**34,386**	**826 (2.40)**	**0**	**3,646**	**33 (0.91)**	**0**
20～24歳	1,636	72 (4.40)	0	2	0 (0.00)	0
25～29歳	3,063	151 (4.93)	0	21	0 (0.00)	0
30～34歳	3,349	145 (4.33)	0	52	1 (1.92)	0
35～39歳	3,519	129 (3.67)	1	155	0 (0.00)	0
40～44歳	3,867	111 (2.87)	0	380	4 (1.05)	0
45～49歳	4,373	96 (2.20)	1	731	8 (1.09)	0
50～54歳	4,510	61 (1.35)	2	986	7 (0.71)	1
55～59歳	3,413	33 (0.97)	0	626	7 (1.12)	2
60～64歳	2,930	11 (0.38)	0	368	4 (1.09)	1
65～69歳	1,928	9 (0.47)	0	182	1 (0.55)	1
70歳以上	1,798	8 (0.44)	0	143	1 (0.70)	0

◎子宮頸部がん検診　年齢別細胞診結果（ベセスダシステム報告）

区分	NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	AGC	AIS	Adeno-carcinoma	その他の悪性腫瘍
総　数	**33,560**	**315**	**70**	**298**	**107**	**5**	**28**	**2**	**1**	**0**
20～24歳	1,564	32	2	36	1	0	1	0	0	0
25～29歳	2,912	62	3	64	17	0	5	0	0	0
30～34歳	3,204	44	14	62	20	1	4	0	0	0
35～39歳	3,390	46	17	38	22	0	6	0	0	0
40～44歳	3,756	50	9	30	19	1	1	1	0	0
45～49歳	4,277	42	9	31	10	0	2	1	1	0
50～54歳	4,449	16	10	21	8	1	5	0	0	0
55～59歳	3,380	12	1	12	4	0	4	0	0	0
60～64歳	2,919	3	3	1	2	2	0	0	0	0
65～69歳	1,919	6	0	2	1	0	0	0	0	0
70歳以上	1,790	2	2	1	3	0	0	0	0	0

（頸部不適正検体は1件でいずれも再検査提出あり）

【扁平上皮系】

結果	略語	推定される病理診断※1	クラス分類※2	取扱い(参考)
1)陰性	NILM	非腫瘍性所見 炎症	Ⅰ・Ⅱ	異常なし:定期健診
2)意義不明な 異型扁平上皮	ASC-US	軽度扁平上皮内病変疑い※3 説明:「判定が難しい」 「鑑別が困難である」	Ⅱ/Ⅲa	要精検: ①HPV検査による判定が望ましい 陰性:1年後に細胞診 陽性:コルポスコピー、生検 ②HPV 検査非施行 6か月以内の細胞診再検査
3)高度扁平上皮内病変 を除外できない 異型扁平上皮細胞	ASC-H	高度扁平上皮内病変疑い※4 説明:「高度病変を疑う」	Ⅲa/Ⅲb	要精検:コルポスコピー、生検
4)軽度扁平上皮内病変	LSIL	HPV 感染 CIN1 (軽度異形成)※5	Ⅲa	
5)高度扁平上皮内病変	HSIL	CIN2(中等度異形成)※5 CIN3(高度異形成/上皮内がん)※5	Ⅲa/ Ⅲb/Ⅳ	
6)扁平上皮がん	scc	扁平上皮がん （ＩＡ期のがん※6 を含む)	Ⅴ	

【腺系】

7)異型腺細胞	AGC	腺系病変疑い	Ⅲ	要精検:コルポスコピー、生検、頸管及び内膜細胞診又は組織診
8)上皮内腺がん	AIS	上皮内腺がん	Ⅳ	
9)腺がん	Adeno carcinoma	腺がん	Ⅴ	

【その他の悪性腫瘍】

10)その他の悪性腫瘍	Other	その他の悪性腫瘍	Ⅴ	要精検:病変検索

※1 報告書には臨床的取扱の参考にするために、推定される病理組織分類を従来どおり付記することが推奨される。

※2 現行の子宮頸がん検診でクラス分類は用いられない。

※3 軽度扁平上皮内病変(LSIL)疑い(否定できない)。全報告の 5%以下で有ることが期待される。ハイリスク HPV が約 50%に検出される。約 10～20%は CIN2-CIN3(中等度一高度異形成、上皮内がん)と最終診断される。

※4 高度扁平上皮内病変(HSIL)疑い(否定できない)。全 ASC の 10%以下であることが期待される。CIN2(中等度異形成)以上と最終診断される割合が ASC-US より高い。

※5 子宮頚癌取扱い規約第 3 版(2012 年 4 月)から CIN:cervical intraepithelial neoplasia(子宮頸部上皮内腫瘍)が用いられるようになった。

※6 子宮頚癌取扱い規約第 4 版(2017 年 7 月)から、微小湿潤扁平上皮がんと微小浸潤腺がんが削除され、それぞれ扁平上皮がんと腺がんに含まれることになったので、従来の微小浸潤がんは IA 期のがんと表記されることになった。

(東京都生活習慣病検診管理指導協議会がん部会委員)提供資料より

＜子宮がん検診からの精密検査＞

子宮がん検診要精密検査対象者のうち、保健センターでの精密検査の受診者は48人であった。

◎子宮がん検診 精密検査年齢別疾病分類（保健センター実施分）

区　　分	総数	20～29歳	30～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上
受診者数	48	18	23	2	2	1	1	1	0	0
扁平上皮がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頸部腺がん	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
体部腺がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上皮内腺がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CIN3(上皮内がん)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CIN3(高度異形成)	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0
CIN2(中等度異形成)	10	5	4	0	1	0	0	0	0	0
CIN1(軽度異形成)	25	9	11	2	1	1	1	0	0	0
その他	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
異常なし	8	2	5	0	0	0	0	1	0	0

※疾病は一人一疾病

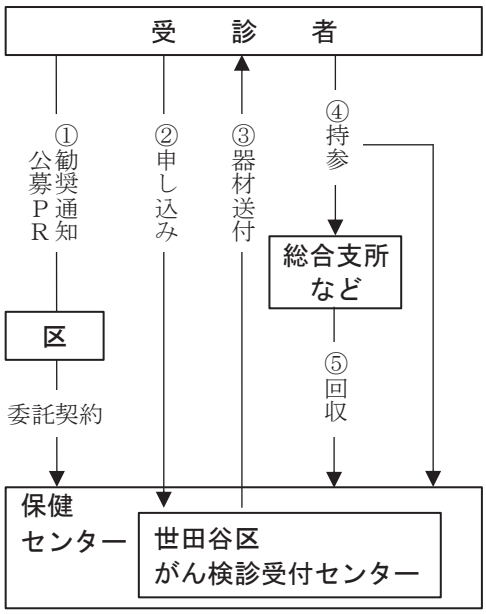
2　大腸がん検診

世田谷区からの委託を受け、40歳以上の区民を対象とした便潜血検査（金コロイド比色法による２日方式）を実施している。令和２年度より表面擦過が容易で精度の安定したブラシ式採便器材を用い、全自動機器による定量法を行っている。

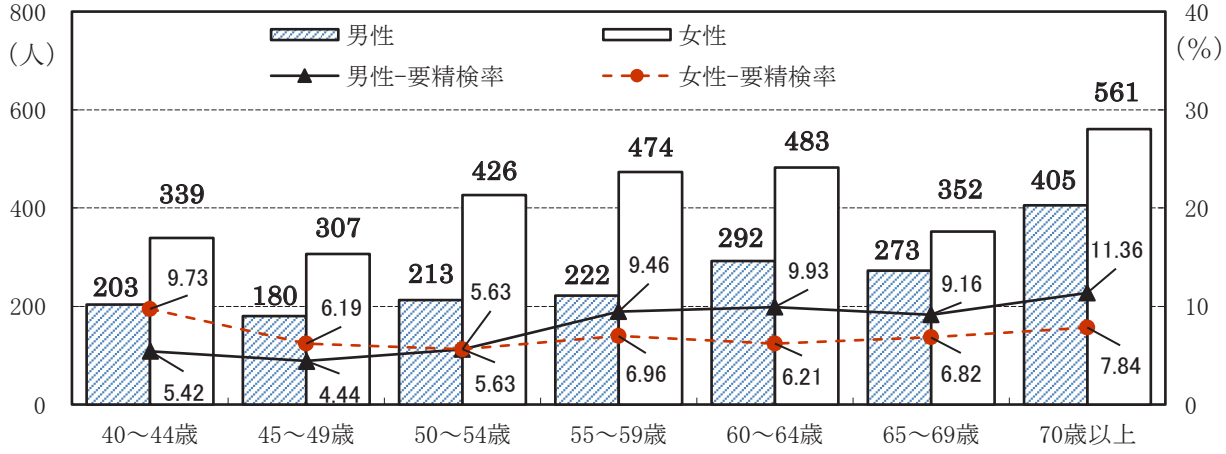
検診結果は、郵送で通知し、個別の質問に対しては別途電話で対応している。

検診の結果、精密検査が必要とされた受診者（陽性）には、医療機関と緊密な連携を保ちながら、内視鏡および病理組織による精密検査（保険診療）を実施している。

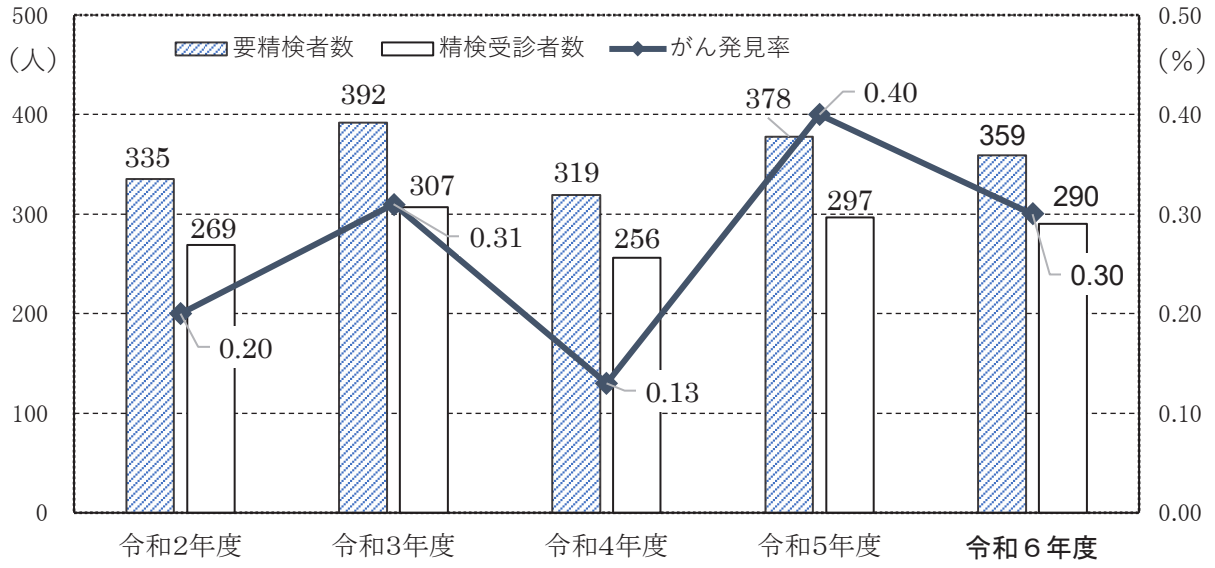
◎大腸がん検診実施流れ図



◎大腸がん検診　男女・年齢別受診者数と要精検率



◎大腸がん検診 精密検査実施状況とがん発見率



◎大腸がん検診 受診者状況と推移

年度	受診者数 A	要精検者数 B (B／A%)	精検受診者数 C (C／B%)	がん発見数 D	早期がん数 E (E／D%)	がん発見率 (D／A%)
令和２年度	4,558	335（7.3）	269（80.3）	9	4（44.4）	0.20
令和３年度	5,174	392（7.6）	307（78.3）	16	9（56.3）	0.31
令和４年度	4,645	319（6.9）	256（80.3）	6	5（83.3）	0.13
令和５年度	5,053	378（7.5）	297（78.6）	20	9（45.0）	0.40
令和６年度	**4,730**	**359（7.6）**	**290（80.8）**	**14**	**9（64.3）**	**0.30**

※精検結果の把握を翌年度末までの１年間行っている。そのため、前年度の報告数に追跡調査のデータを加え修正している。

＜大腸がん検診＞

令和6年度実績は4,730人で、精密検査が必要とされた方は、359人（要精検率7.6%）である。このうち、追跡調査で把握できた精検受診者数は290人（受診率80.8%）、がん発見者数は14人（発見率0.30%、陽性反応適中度は3.9%）であった。

受診者の性別構成は男性1,788人、女性2,942人であり、これまでと同様に女性の割合が高い。受診者数の年齢分布は50歳代から多くなり、高齢者の受診割合が高い。要精検率は7.59%で、男性では55歳以上で高くなる傾向が見られた。また、男女の要精検率は女性の7.04%に対し、男性が8.50%と高かった。

◎大腸がん検診 男女・年齢別受診者状況

区分	合　計			男　性			女　性		
	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	受診者数	要精検者数	要精検率(%)
総　数	**4,730**	**359**	**7.59**	**1,788**	**152**	**8.50**	**2,942**	**207**	**7.04**
40～44歳	542	44	8.12	203	11	5.42	339	33	9.73
45～49歳	487	27	5.54	180	8	4.44	307	19	6.19
50～54歳	639	36	5.63	213	12	5.63	426	24	5.63
55～59歳	696	54	7.76	222	21	9.46	474	33	6.96
60～64歳	775	59	7.61	292	29	9.93	483	30	6.21
65～69歳	625	49	7.84	273	25	9.16	352	24	6.82
70歳以上	966	90	9.32	405	46	11.36	561	44	7.84

＜大腸がん検診からの精密検査＞

大腸がん検診要精密検査対象者のうち、保健センターでの精密検査の受診者は6人で、精検受診が把握されたうちの2.1%である。年齢別受診者数、がん発見数等の内訳は表に示す。

◎大腸がん検診 精密検査男女・年齢別疾病分類（保健センター実施分）

区分	総数	男	女	40～44歳		45～49歳		50～54歳		55～59歳		60～64歳		65～69歳		70歳以上	
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
受診者数	**6**	**1**	**5**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1**	**1**	**4**
大腸がん	**0**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大腸がん疑い	**0**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大腸ポリープ	**4**	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
大腸粘膜下腫瘍	**1**	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
潰瘍性大腸炎	**0**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異常なし	**1**	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

※疾病は一人一疾病

Ⅲ　健康増進事業（区指定管理）

健康度測定、運動負荷測定では、健康チェックや日常生活のアドバイスから個別の指導を行いより専門性の高いサービスを提供するとともに、安心・安全な受診環境を整備している。

健康増進指導では、心とからだの健康づくりを推進する講座・教室の集団指導と、個々へのフォローのために個別相談を実施し、また壮年期世代の支援として夜間および土曜日に講座を開催している。さらに、運動指導員の派遣指導、健康づくり支援リーダーの育成、地域講座開催など地域での健康づくり支援に取り組んでいる。

1　健康度測定・再測定

18 歳以上の区民を対象に「心とからだの健康づくり」を目的とした健康度測定を実施している。

測定内容は一般的な健診に加え、体成分分析測定、負荷心電図、呼吸機能検査、眼底検査、生活状況調査、体力測定とこれらの結果に基づいた医師の結果説明や休養・栄養・運動の個別カウンセリングを実施している。

受診者には生活習慣改善のきっかけづくりや継続の手助けとして「健康増進指導」への参加も勧めている。さらに、継続的な健康管理や効果確認のため、6 ヵ月後の再測定の機会を設けている。

また、他医療機関で受診した健診結果（区の特定健診相当の検査内容）を活用し、一日の受診で済む「健康度測定料金の減額措置（半額）」を設け、利用者/受診者の利便性の向上と受診方法の多様化を図っている。

（1）健康度測定の内容と流れ

一次測定　　***※斜字は他医療機関データ利用可***

検査項目	
尿検査	*糖・蛋白・潜血・ケトン体など 8 項目*
胸部レントゲン	*正面（直接撮影）*
血液一般	*赤血球数・Hb・Ht・白血球数、血小板*
血液生化学	*数血糖・HbA1c、AST、ALT LDLコレステロール、中性脂肪、尿素窒素、クレアチニン、e-GFR、アミラーゼ、* 血清鉄など20項目
眼底検査	*両眼*
安静心電図	標準12誘導
呼吸機能	%肺活量、1秒率など
視力検査	遠見（5m） 裸眼・矯正
身体計測	身長、体重、標準体重、BMI、腹囲
体成分分析測定	体脂肪率、内臓脂肪レベル、骨格筋肉量と筋肉バランス
問診（調査票と聞きとり）	
休養	既往歴、生活リズム、愁訴 ストレスチェックなど
栄養	簡易食物摂取調査 食習慣調査
運動	活動状況調査 運動習慣調査

二次測定

検査項目	
診察	問診・聴診
血圧測定	自動血圧計
負荷心電図	（マスター2階段法）
体力測定	筋力・動的バランス・柔軟性・持久力・歩行能力
総合判定	
医師からの結果説明	
個人カウンセリング	

《休養》　保健師・看護師

自身を心と体の両面から客観視し、気づかなかった自分に気づき、生活リズムの改善や行動変容のポイントをアドバイスする。

《栄養》　管理栄養士

問診で得られた情報から現在の食生活の状態を知ってもらい、検査結果を踏まえたうえで、実行しやすい改善方法をアドバイスする。

《運動》　運動指導員

一人ひとりに適した運動の強さや量、活動面からの改善点、体力を向上させ、柔軟性・筋力を高める運動、腰痛・ひざ痛予防の体操などをアドバイスする。

（2）受診者の状況と結果の判定比

①受診者数

令和 6 年度の健康度一次測定受診者は 574 人で、そのうち再測定受診者が 5 人であった。二次測定受診者は 526 人であった。

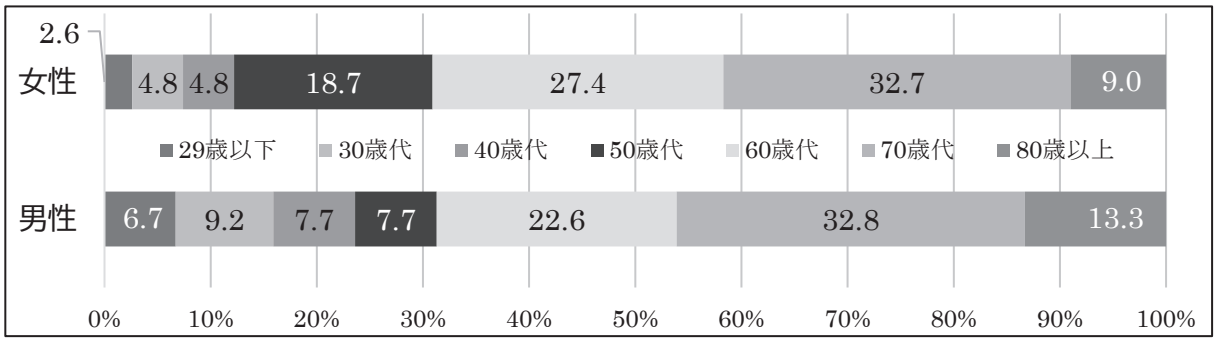
他医療機関で受診した健診結果を活用する「健康度測定料金の減額措置（半額）」を利用した受診者は 50 人（8.7%）であった。受診者の利便性の向上などのための処置ではあるが、ここ数年の利用率は減少している。

②年齢・男女構成

男女構成比は男性 195 人(34.0%)、女性 379 人(66.0%)で、前年度同様に女性の受診が多かった。

年代別では、男女合わせた 60 歳以上の割合は 69.0%（男性 68.7%、女性 69.1%）で前年度に比べて男性は 4.0 ポイント減少、女性は 0.7 ポイント減少していた。

◎受診者の年齢構成比



③結果の判定比（令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日に一次測定を受診した 574 人）

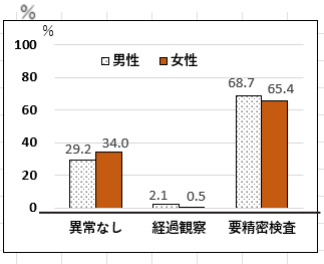
男女別の判定比では、「要精密検査」が男性は 68.7%、女性は 65.4%で男性の方が高率であった。

年代別判定比での「要精密検査」の割合は、男性は 20 歳代 53.8%、40 歳代 53.3%、50 歳代 60.0%と高い割合であった。女性は 60 歳代 66.3%、70 歳代 73.4%、80 歳代 79.4%であった。前年度に比べ「要精密検査」の割合は男性で 8.5 ポイント増加、女性で 6.3 ポイント減少していた。

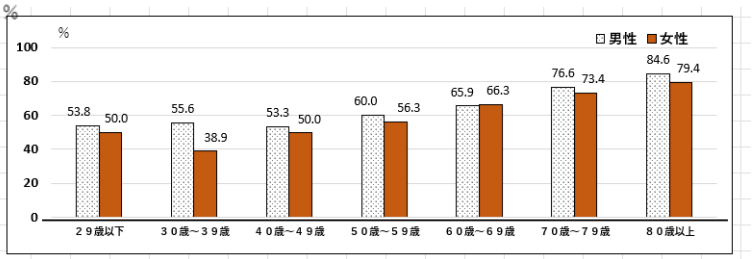
◎年齢・性別・判定別集計表

年代 / 性別 / 判定	合計			２９歳以下			３０歳～３９歳			４０歳～４９歳			５０歳～５９歳			６０歳～６９歳			７０歳～７９歳			８０歳以上		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
異常なし	57	129	186	6	5	11	8	11	19	6	9	15	5	31	36	15	35	50	14	31	45	3	7	10
経過観察	4	2	6	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	1	2	3	1	0	1
要精密検査	134	248	382	7	5	12	10	7	17	8	9	17	9	40	49	29	69	98	49	91	140	22	27	49
合　計	**195**	**379**	**574**	**13**	**10**	**23**	**18**	**18**	**36**	**15**	**18**	**33**	**15**	**71**	**86**	**44**	**104**	**148**	**64**	**124**	**188**	**26**	**34**	**60**

◎男女別判定比



◎年代別要精密検査の割合



（3）個別カウンセリングの実施状況（令和 6 年度に二次測定を受診した人）

生活状況の調査結果と医師の総合判定に基づき、一人ひとりの状況に合わせて、心とからだの健康づくりをめざしアドバイスや支援を行っている。

実施割合は休養・栄養・運動とも 9 割以上であった。

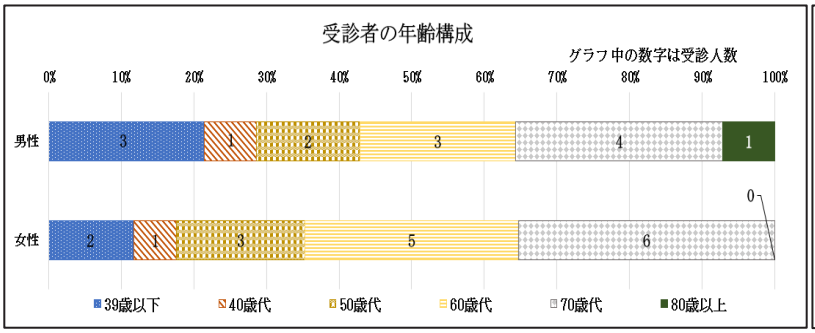
（二次測定受診者数526人中）	休養	栄養	運動
カウンセリング受診者数（人）	526	526	525
実　施　割　合（%）	100.0	100.0	99.8

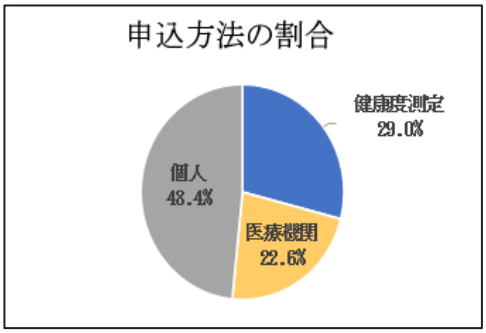
2　運動負荷測定・運動処方

トレッドミルによる運動負荷測定は、安静心電図では見つけにくい狭心症などの虚血性心疾患や不整脈の診断を行うことを目的に実施している。また、安全に運動を行う上での至適運動量を推定することもできる。測定対象者は、健康度測定や区内医療機関にて心疾患が疑われ精密検査を指示された方、健康診断結果を有していてこれから運動を始めるにあたり運動中の心機能の状態を知りたい方やマシントレーニング・有酸素運動での強度を知りたい方である。

（1）受診状況

受診者数は 31 人で、男性 14 人（平均年齢 58.6 歳）、女性 17 人（平均年齢 61.8 歳）で男性が 45.2%、女性が 54.8%であった。年齢別では 70 歳代が多く 32.3%であった。
申し込み内容は、健康度測定からの受診が 9 人（29.0%）、医療機関からの紹介が 7 人（22.6%）、個人での申込みが 15 人（48.4%）であった。

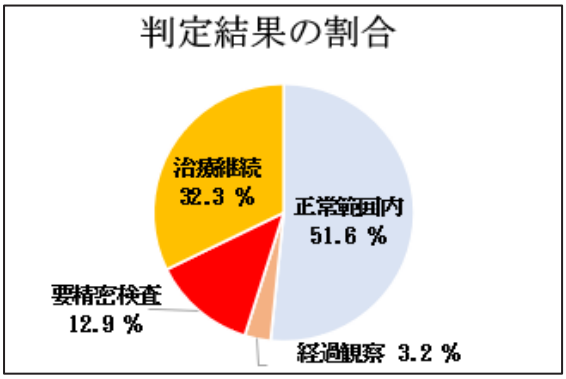


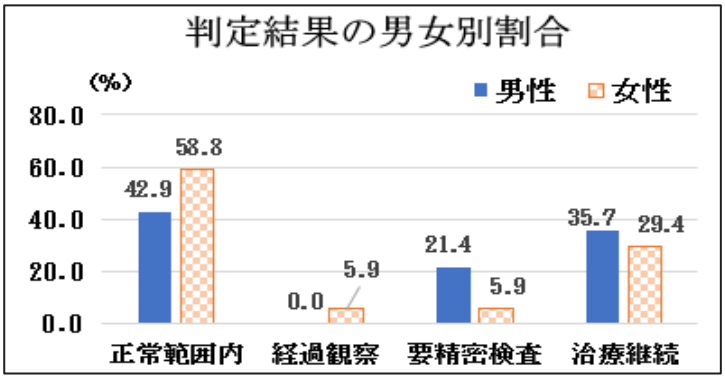


（2）判定結果

全体判定比では、正常範囲内は 51.6%、経過観察 3.2%、要精密検査 12.9%、治療継続 32.3%であった。男女別にみると、男女ともに正常範囲内が一番多く、次いで治療継続が多かった。
要精密検査は男性 3 人、女性 1 人であった。

年齢	合計			29歳以下			30歳～39歳			40歳～49歳			50歳～59歳			60歳～69歳			70歳～79歳			80歳以上		
区分	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
正常範囲内	6	10	16	3	0	3	0	2	2	0	1	1	1	3	4	2	4	6	0	0	0	0	0	0
経過観察	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
要精密検査	3	1	4	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	1
治療継続	5	5	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	2	3	4	7	0	0	0
合計	**14**	**17**	**31**	**3**	**0**	**3**	**0**	**2**	**2**	**1**	**1**	**2**	**2**	**3**	**5**	**3**	**5**	**8**	**4**	**6**	**10**	**1**	**0**	**1**





（3）運動処方

運動処方は、医師の処方に基づき健康づくりのための安全で効果的な運動強度の目安を提示し、実際に「運動コース」の体験（心拍計を装着）と運動指導員による個別アドバイスを提供する。
受診者 31 人のうち、男性 2 人（平均 74.0 歳）、女性 2 人（平均 71.0 歳）の 4 人に運動処方を実施した。（実施率 12.9%）

３　健康増進指導（講座・教室）

健康増進指導は、医学的検査に基づいた運動・栄養・休養の総合教室をはじめ、壮年期世代対象講座、運動・栄養・休養の各講座、障害者対象講座の集団指導を実施している。また、個々に応じたアドバイスを行う個別相談(運動・栄養・休養）を実施している。

（１）受講者内訳と利用状況

令和６年度は71講座全450回を開催し、延11,352人に対して集団指導を行った。また、89人に個別相談（栄養・運動・休養）を行った。性年齢別利用状況では、男女ともに70歳代の利用が一番多かった。60歳以上の利用割合は男性16.7%、女性64.4%、男女合計では78.1%を占めた。平均年齢は、男性69.9歳、女性66.7歳であった。

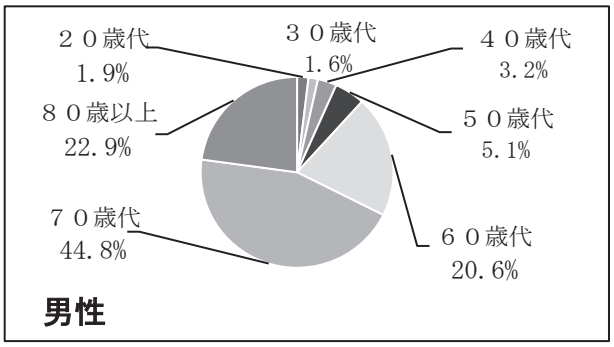
高齢な方でも効果的な指導を受けられる環境を提供していることで、80歳以上の利用は326人と、全体の16.2%の方に安心してご利用いただいた。また、壮年期世代の方にも参加しやすいプログラムを提供したことにより、59歳以下の利用は544人と、全体の27.1%（男性11.7%・女性30.0%）の方にご利用いただいた。

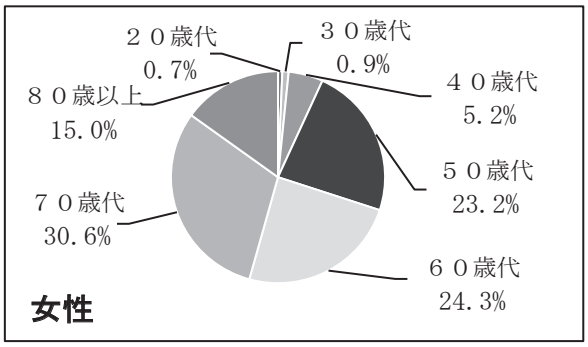
59歳以下を対象とした壮年期講座では、土曜講座18回、夜間講座32回、全50回を開催し実人数257人、延1,317人が受講した。

◎年代・男女別、講座・教室および個別相談利用人数

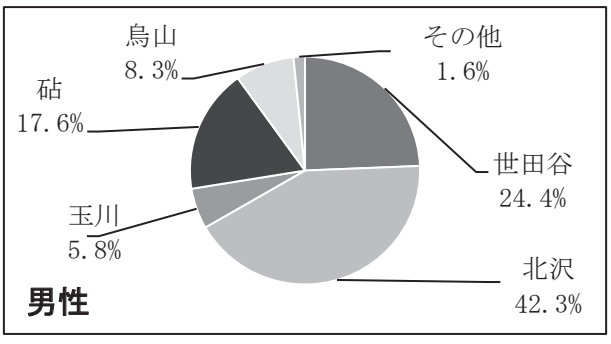
	一般教室（個別相談を含む）						壮年期教室（59歳以下）						合計					
	実人数			延人数			実人数			延人数			実人数			延人数		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
20歳代	6	6	12	14	11	25	0	5	5	0	19	19	6	11	17	14	30	44
30歳代	2	5	7	6	23	29	3	11	14	11	51	62	5	16	21	17	74	91
40歳代	7	48	55	15	177	192	3	40	43	13	181	194	10	88	98	28	358	386
50歳代	4	209	213	13	935	948	12	183	195	57	985	1042	16	392	408	70	1920	1990
										59歳以下合計			37	507	544	129	2382	2511
60歳代	65	410	475	416	2230	2646							65	410	475	416	2230	2646
70歳代	141	517	658	982	3066	4048							141	517	658	982	3066	4048
80歳以上	72	254	326	509	1727	2236							72	254	326	509	1727	2236
										60歳以上合計			278	1181	1459	1907	7023	8930
合計	297	1449	1746	1955	8169	10124	18	239	257	81	1236	1317	315	1688	2003	2036	9405	11441

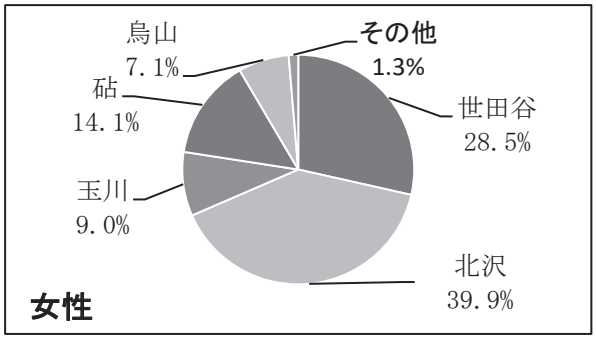
◎年代別受講利用状況（実人数）





◎地域別利用状況





令和６年度健康増進指導（講座・教室）全７１講座および個別相談一覧表と受講者の内訳

事業名称			回数	定員	応募	延人数			実人数			平均年齢			出席率(%)	1回あたりの人数
						男	女	計	男	女	計	男	女	計		
①トータルな健康づくり	1	健康度測定＆健康的にやせる教室	16	35	40	58	345	**403**	4	30	**34**	76.6	68.1	**69.3**	74.1	25.2
	2	健康度測定&まるっと応援！脱メタボ教室	15	24	52	35	217	**252**	3	21	**24**	69.1	62.8	**63.7**	70.0	16.8
	3	踏みだせ！豊かに歳を重ねる健幸教室	15	24	36	60	188	**248**	5	17	**22**	75.5	75.1	**75.2**	75.2	16.5
	4	健診結果&まるっと応援！脱メタボ教室	12	40	46	77	257	**334**	8	28	**36**	71.7	66.2	**67.5**	77.3	27.8
	5	更年期を乗り越える女性のための健康教室	12	24	35	0	179	**179**	0	21	**21**	—	55.3	**55.3**	71.0	14.9
	6	健康度測定＆血糖コントロール教室	15	24	71	65	159	**224**	5	13	**18**	80	69.5	**72.6**	83.0	14.9
	7	80歳のやさしい体操教室　春コース①	12	35	48	91	256	**347**	10	26	**36**	81.6	81.6	**81.6**	80.3	28.9
	8	80歳のやさしい体操教室　春コース②	12	35	16	67	244	**311**	8	30	**38**	81.1	82.3	**82.0**	68.2	25.9
	9	80歳のやさしい体操教室　秋コース①	12	35	39	80	277	**357**	9	26	**35**	83.4	82.2	**82.4**	85.0	29.8
	10	80歳のやさしい体操教室　秋コース②	12	35	23	68	299	**367**	7	31	**38**	84	81.7	**82.1**	80.5	30.6
	11	80歳のやさしい体操教室　冬コース①	12	35	18	107	234	**341**	12	23	**35**	83.2	82.6	**82.8**	81.2	28.4
	12	80歳のやさしい体操教室　冬コース②	12	35	28	51	242	**293**	5	28	**33**	80.6	82.2	**82.0**	74.0	24.4
②からだの元気	13	体力アップのためのサーキット運動教室	12	40	160	82	239	**321**	9	32	**41**	73	71.7	**72.0**	65.2	26.8
	14	ひざや腰にやさしい体操教室	12	40	95	33	346	**379**	3	38	**41**	73.2	72.9	**72.9**	77.0	31.6
	15	始めよう！元気中高年の筋トレ教室	12	40	127	79	319	**398**	10	32	**42**	70.3	69	**69.3**	79.0	33.2
	16	ヨーガで腰痛予防＆筋力アップ教室	12	40	149	33	326	**359**	4	38	**42**	72.9	69	**69.4**	71.2	29.9
	17	40・50代向けスタミナアップ教室	12	40	32	16	284	**300**	3	34	**37**	68.9	59.1	**59.6**	67.6	25.0
	18	脚筋力アップの中国式健康体操教室	12	40	121	39	298	**337**	6	34	**40**	70.5	73.6	**73.2**	70.2	28.1
	19	レッツエンジョイリズム体操教室	12	40	108	20	325	**345**	2	37	**39**	69.5	67.9	**68.0**	73.7	28.8
	20	体成分測定＆コツコツ筋力づくり教室	12	40	94	72	296	**368**	9	31	**40**	70.1	71.2	**71.0**	76.7	30.7
	21	男のための筋力トレーニング体操教室	12	40	67	371	0	**371**	39	0	**39**	72.3	—	**72.3**	79.3	30.9
	22	始めよう！歩く・筋トレ・ダンス教室	12	40	99	39	294	**333**	6	36	**42**	69.3	69.9	**69.9**	66.1	27.8
	23	骨密度測定&骨に効く骨コツ体操教室	12	40	111	35	343	**378**	3	37	**40**	72.4	71.9	**72.0**	78.8	31.5
	24	体にやさしいフラ&エクササイズ教室	12	40	85	0	386	**386**	0	43	**43**	—	67	**67.0**	74.8	32.2
	25	筋力アップで腰痛肩こりとんでけ教室	12	40	101	135	256	**391**	14	25	**39**	71.2	69.6	**70.1**	83.5	32.6
③体験	26	初めてのポールウォーキング体験講座①	3	25	27	11	38	**49**	5	15	**20**	73.8	70	**70.9**	81.7	16.3
	27	ズンバダンス＆リラクセーション体験	6	40	70	0	175	**175**	0	41	**41**	—	68	**68.0**	71.1	29.2
	28	骨盤底筋強化＆フラダンス体験講座	6	40	71	0	197	**197**	0	43	**43**	—	66.7	**66.7**	76.4	32.8
	29	初めてのポールウォーキング体験講座②	3	25	13	13	40	**53**	5	15	**20**	70.7	67.3	**68.2**	88.3	17.7
	30	初めてのしっかり体力アップ体操講座	6	40	37	30	164	**194**	6	33	**39**	75.8	66.3	**67.8**	82.9	32.3
	31	初めてのゆったりストレッチ体操講座	6	40	36	30	132	**162**	5	29	**34**	74.9	72.6	**73.1**	79.4	27.0
④心と体	32	自律訓練法体験講座①	2	24	18	2	30	**32**	1	16	**17**	67	64.6	**64.8**	94.1	16.0
	33	睡眠改善講座①	2	24	41	7	34	**41**	4	20	**24**	77	64.8	**66.9**	85.4	20.5
	34	自律訓練法体験講座②	2	24	16	4	30	**34**	2	17	**19**	81	63.3	**65.4**	89.5	17.0
	35	ストレスセルフケア講座①	4	24	15	4	32	**36**	1	12	**13**	81	64.9	**66.7**	69.2	9.0
	36	自律訓練法体験講座③	2	24	23	6	34	**40**	3	18	**21**	74	60.6	**62.6**	95.2	20.0
	37	睡眠改善講座②	2	24	34	8	31	**39**	4	19	**23**	73.5	72	**72.3**	84.8	19.5
	38	自律訓練法体験講座④	2	24	16	3	21	**24**	2	13	**15**	72.7	62.8	**64.0**	80.0	12.0
	39	ストレスセルフケア講座②	4	24	19	11	59	**70**	3	19	**22**	72.5	65.7	**66.7**	79.5	17.5

		事業名称	回数	定員	応募	延人数			実人数			平均年齢			出席率(%)	1回あたりの人数
						男	女	計	男	女	計	男	女	計		
⑤食で健康	40	コレステロールと食事の講座	2	24	28	2	39	**41**	1	22	**23**	75.0	69.3	**69.6**	89.1	20.5
	41	やさしいエコ・クッキング講座	1	12	19	1	8	**9**	1	8	**9**	46	68.3	**65.8**	100	9.0
	42	やさしいエコ・クッキング講座	1	12	14	1	10	**11**	1	10	**11**	63	66.3	**66.0**	100	11.0
	43	カルシウムアップの食事講座	1	24	13	0	16	**16**	0	16	**16**	—	62.8	**62.8**	100	16.0
	44	体脂肪を減らす食事講座	2	24	23	4	34	**38**	2	18	**20**	67	63.6	**64.0**	95.0	19.0
	45	糖質の賢い食べ方講座	2	24	17	0	27	**27**	0	14	**14**	—	64.1	**64.1**	96.4	13.5
	46	はじめての減塩チャレンジ講座	1	12	7	2	5	**7**	2	5	**7**	76.5	74	**74.7**	100	7.0
	47	はじめての減塩チャレンジ講座	1	12	5	0	6	**6**	0	6	**6**	—	68.8	**68.8**	100	6.0
	48	カルシウムアップの食事講座	1	24	22	0	18	**18**	0	18	**18**	—	72.4	**72.4**	100	18.0
	49	コレステロールと食事の講座	2	24	8	0	22	**22**	0	13	**13**	—	66	**66.0**	84.6	11.0
	50	体脂肪を減らす食事講座	2	24	77	6	33	**39**	4	19	**23**	65.5	63.5	**63.8**	84.8	19.5
	51	カルシウムアップの食事講座	1	24	25	0	19	**19**	0	19	**19**	—	69.4	**69.4**	100.0	19.0
	52	糖質の賢い食べ方講座	2	24	14	0	25	**25**	0	13	**13**	—	71.7	**71.7**	96.2	12.5
	53	フレイル予防の食事講座	1	12	4	0	2	**2**	0	2	**2**	—	65.5	**65.5**	100	2.0
	54	フレイル予防の食事講座	1	12	2	0	1	**1**	0	1	**1**	—	83	**83.0**	100	1.0
	55	カルシウムアップの食事講座	1	24	18	1	14	**15**	1	14	**15**	62	68.8	**68.3**	100	15.0
⑥壮年期の健康	56	骨コツ脚力アップ太極拳講座	8	40	39	0	208	**208**	0	35	**35**	—	53.4	**53.4**	74.3	26.0
	57	食と動でヘルシーダイエット講座	8	40	34	8	193	**201**	1	34	**35**	50	52.6	**52.5**	71.8	25.1
	58	ヨーガで腰痛予防＆筋力アップ講座	8	40	58	1	218	**219**	1	38	**39**	51	52.1	**52.1**	70.2	27.4
	59	スタミナアップファイティング講座	8	40	34	0	187	**187**	0	35	**35**	—	51.7	**51.7**	66.8	23.4
	60	ヨーガで腰痛予防＆筋力アップ講座	6	40	84	21	186	**207**	5	38	**43**	56.4	51.4	**51.9**	80.2	34.5
	61	ゆるジョグからの走れるカラダづくり講座	6	30	46	19	108	**127**	4	27	**31**	48.5	51.5	**51.1**	68.3	21.2
	62	体づくりサーキット運動 &マシン講座	6	40	35	32	136	**168**	7	32	**39**	49.9	51.4	**51.1**	71.8	28.0
⑦障害	63	障害者のマシン&ダンスで体力づくり	3	12	9	16	18	**34**	6	6	**12**	39	53.2	**46.5**	94.4	11.3
	64	障害者のためのマシンで体力づくり	3	12	13	18	17	**35**	6	6	**12**	56.7	40.1	**48.6**	97.2	11.7
	65	障害者のためのマシンで体力づくり	3	12	14	20	9	**29**	8	4	**12**	52.4	37.7	**47.8**	80.6	9.7
⑧特別教室	66	貯筋体操①	1		—	4	19	**23**	4	19	**23**	73.5	72.9	**73.0**	100	23.0
	67	貯筋体操②	1		—	3	20	**23**	3	20	**23**	74.3	74.1	**74.1**	100	23.0
	68	すごい足踏み①	1		—	6	32	**38**	6	32	**38**	78.3	74.8	**75.4**	100	38.0
	69	すごい足踏み②	1		—	5	31	**36**	5	31	**36**	74.4	72.5	**72.8**	100	36.0
	70	笑顔で過ごすための心と身体のケア	1		—	0	13	**13**	0	13	**13**	—	59.4	**59.4**	100	13.0
	71	背筋トレーニング＆ファイティング	1		—	7	33	**40**	7	33	**40**	73	67.2	**68.2**	100	40.0
71 講座の合計			**450**	**1921**	**2899**	**2019**	**9333**	**11352**	**300**	**1622**	**1922**	**67.0**	**67.1**	**71.4**		**25.2**
個別	1	個別相談（運動）		1	—	6	23	**29**	6	21	**27**	71.2	63.5	**65.1**	—	1
	2	個別相談（栄養）		1	—	10	36	**46**	8	33	**41**	57.5	64.7	**63.1**	—	1
	3	個別相談（休養）		1	—	1	13	**14**	1	11	**12**	83	63.4	**64.8**	—	1
個別相談の合計				**—**		**17**	**72**	**89**	**15**	**65**	**80**	**70.6**	**63.9**	**64.3**		

４　専門職員の派遣による地域での健康づくり支援

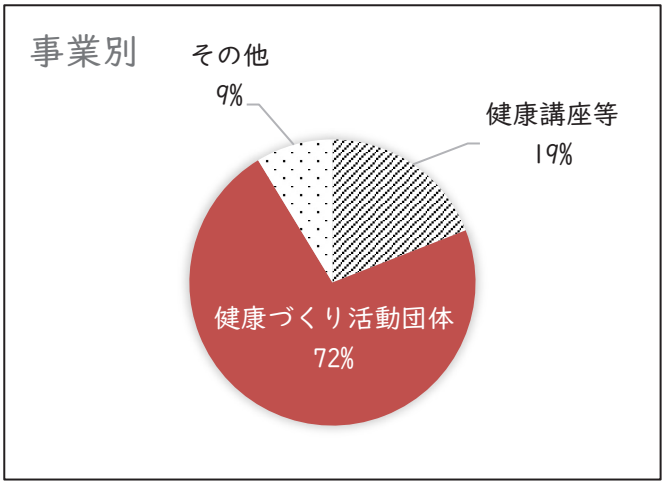
（１） 運動指導員の実地指導

運動指導員を地域で開催される健康づくり事業や区民の健康づくり活動団体に派遣している。

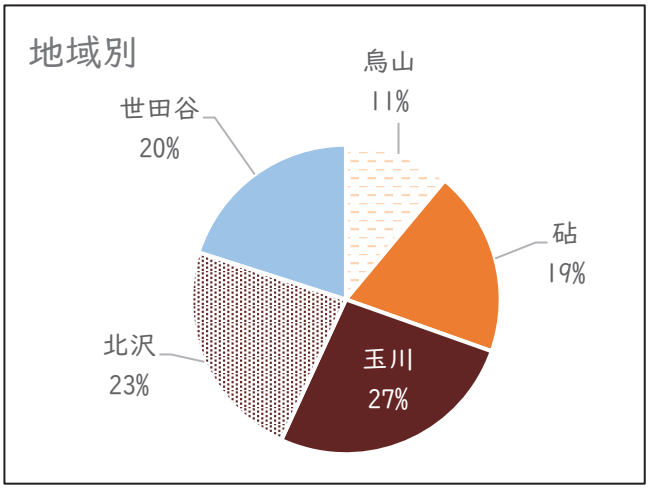
令和６年度は、「５類感染症」移行後も感染症予防対策をしながら、年間 1,135 回、まちづくりセンターなどで開催される健康講座等に 113 回、地域の健康づくり活動団体（216 団体）へ 13,556 人指導した。（図 1）地域別の依頼数を見ると、梅丘からは遠方である玉川地域が一番多かった。（図 2）グループの年齢構成はおおむね 65 歳以上の高齢グループが９割以上であった。事業所別に集計すると、４割以上が社会福祉協議会からの依頼であった。（図 3）

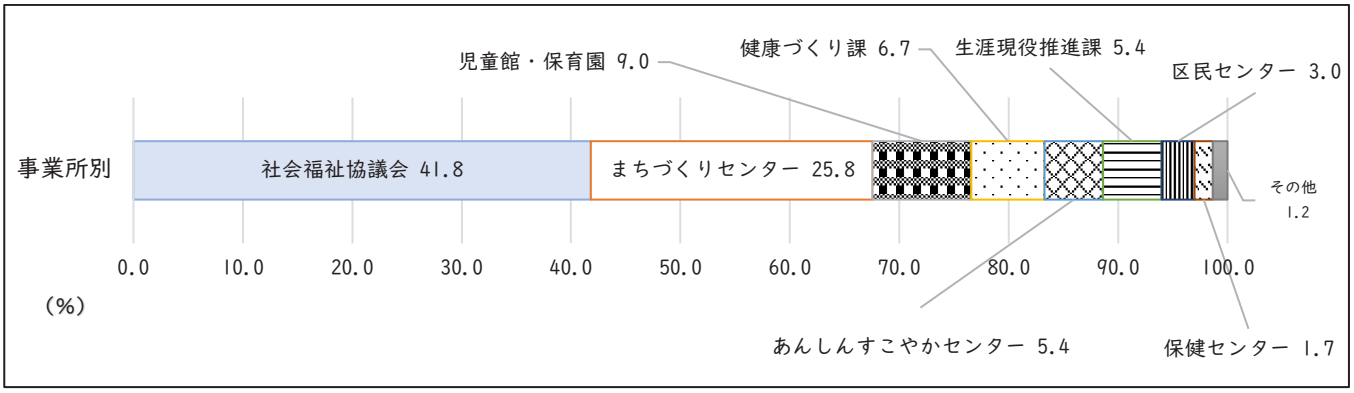
また、この１年間では、新規 10 団体、解散５団体、活動休止１団体、活動休止から活動再開したのは１団体であった。

【図 1】



【図 2】





（２）健康づくり支援

地域健康プラン会議や「身近なまちづくり推進協議会健康づくり部会」主催健康づくり講座等の企画会議へ専門職員を派遣している。また、派遣を円滑に実施するため、保健センター運動指導員派遣要領に沿った調整事務を執り行っている。

令和６年度は、32 回の地域支援と 40 回の事務調整、合計 72 回を実施した。

その他、長期継続 15 団体を総合プラザ１階にポスター掲示し、20 年に渡る長期継続活動を称え、うめとぴあフェスタにて表彰式を行った。

①　弦巻かよう会　②　レモンの会　③　経堂南みどり会体操クラブ（木曜日）
④　いきいき貯筋クラブ世田谷　⑤　玉川福寿会体操部　⑥　二子玉川貯筋クラブ
⑦　いきいき貯筋クラブ瀬田　⑧　たまでんヤジロベー　⑨　いきいき貯筋クラブ宇奈根
⑩　希望ヶ丘はつらつ教室　⑪　祖師谷いきいき貯筋クラブ　⑫　もみじ会
⑬　成城パセリ　⑭　千歳廻寿会　⑮　光寿会健康体操の部　　以上 15 団体

【うめとぴあフェスタの様子】





（３）地域健康出前講座

①出張健康チェック【参加総数　0 人】

各総合支所保健福祉センター健康づくり課の要請により、体成分分析測定と結果説明を行っている。令和 6 年度は要請がなかった。

②出張健康応援団（区民団体対象）【9 回　参加総数　124 人】

区民団体からの要請により、夜間・休日を含め専門職員の派遣を行っている。
内容は以下のＡ～Ｅより選択
（A）体成分分析測定　（B）食事バランスチェック（C）食生活・栄養の話
（D）運動の話や実技　（E）心の健康の話

	実施日	団体	内容	派遣人数	参加人数
1	4 月 17 日	ア	体成分分析測定・運動実技	1	16
2	5 月 20 日	イ	体成分分析測定・運動実技	1	15
3	7 月　6 日	ウ	体成分分析測定・運動実技	2	13
4	7 月 23 日	エ	運動実技	1	11
5	9 月 17 日	オ	体成分分析測定・運動実技	1	14
6	11 月 11 日	カ	栄養講座・心の健康の話	2	7
7	11 月 26 日	キ	体成分分析測定・運動実技	1	11
8	1 月 23 日	ク	体成分分析測定・運動実技	1	18
9	2 月　6 日	ケ	体成分分析測定・運動実技	1	19

（4）地域健康講座　【12 回（4 回講座 3 期）　参加総数 156 人】

この講座は、働き盛り・子育て世代を中心に、身近な地域で健康づくりの機会を提供すること、また地域コミュニティの発足を促すことを目的としている。運動実技と栄養・休養についての講話、骨密度測定および体成分分析測定を実施している。

① 日程・会場

令和 6 年度は官民連携により企業等から会場借用、周知などの協力を得て実施した。各回、講座後に専門職員の派遣による支援（6 回）を実施し、自主活動化に向けて支援を行った。

実施日（協力先）	会　場（住所）	内　容
5月20日～6月10日 （東京都住宅供給公社）	コーシャハイム三宿テラス （三宿 2-16-10）	①運動実技 ②体成分分析測定 ③骨密度測定 ④骨を丈夫にする食事の話 ⑤ストレスケア （アロマ体験など） ⑥グループワーク　他
6月24日～7月29日 （第一生命株式会社）	第一生命自由が丘オフィス （奥沢 5-40-8）	
10月22日～11月12日 （ＵＲ都市再生機構）	フレール西経堂 （船橋 5-17）	

② 各講座の様子

【コーシャハイム三宿テラス「初心者向けゆるジョグ＆ストレッチ」】

「ゆるジョグ」をテーマに周知したため、ジョギングに興味を持つ人たちの集団となった。無理のないペースで区内の公園や緑道に行き、フォームや、長く走り続けられる走り方を伝えた。講座後、自主グループとなり、毎週世田谷地域を中心に活動している。

【第一生命自由が丘オフィス「心とからだをほぐして心地いい居場所づくり」】

前年度に続き 2 回目の開催となった。参加者は 40～60 歳代であった。ストレッチ、筋力トレーニング、リズム体操を行った。同年代が多く、共通の話題で盛り上がっていた。講座終了後、同地域で運動を継続したいと 13 人が希望した。昨年度結成したグループに会員が増え活性化に繋がった。

【フレール西経堂「ダンスエクササイズ&アロマでリフレッシュ」】

参加者は主に 40～60 歳代の壮年期世代が集まった。中には 0 歳のお子さんと参加する方もいた。内容はストレッチ、筋力トレーニング、リズムエクササイズを中心に行った。参加者のうち、数名は講座後に自主グループとして活動するとともに、自治会の協力を得ながら積極的に会員募集を行っている。



③ まとめと今後の課題

今年度は、各講座とも運動テーマを設定し、内容を明確にした。また、ジョグ体験やアロマオイル体験など、壮年期世代が興味を示す内容にも取り組んだ。結果、40～50 歳代の参加者も見られた。講座終了後も運動継続を望む声は多いものの、会場や日程の都合で自主グループに登録しない方も多い現状である。一方で、自主活動後は新規メンバーを募るなど、積極的に「地域に根差した活動」を実践している。しかし、グループの自立化には課題が多い。特に運営が軌道に乗るまで、「支援者」としての関わりについて、検証し整えていく必要がある。

（５）職場のげんき力アッププログラム【１社】

区内の中小企業を対象に、壮年期の生活習慣病対策を継続的に実践するため、事業主のバックアップのもと、社内が一体となって取り組む職場単位の支援プログラムを提供している。職場の健康目標にむけて、3～6ヶ月取り組む「げんき力アップ応援コース」と「1日体験コース」を実施している。令和6年度は「1日体験コース」を1社実施した。

	事業所名	実施日	内　容	人数
1	S美容室	3月18日	≪1日体験コース≫　体成分分析測定 運動実技「自宅でできるストレッチと簡単筋トレ」、休養講座「ストレス対策」	6

体成分分析測定の具体的な数値は、体型の現状把握や改善目標の設定にもつながり、健康活動へのきっかけづくりになっている。社員の健康が業績アップにつながる効果など、職場で取り組む健康活動の意義を広くPRし、事業の拡大を目指していく。

５　健康づくり支援　リーダーの養成・活動支援

（１）上級リーダー養成【8人認定】

幅広い年齢層や強度レベルに対応できる指導スキルの向上を目指し、上級養成講座を隔年で開催している。令和6年度は、11期生を対象に開催し8人を認定した。

回数	月日	内　容	講師名	人数
1	7月24日	中高年の方をスタミナアップさせるためのプログラムづくり	保健センター運動指導員	7
2	7月31日	みんなで楽しもう「リレーエアロビクス」	保健センター運動指導員	6

（２）研修＆交流会【6回】

研修は全6回のうち4回は主に指導のスキルアップを目的に、2回はボランティア精神向上に、地域での役割や重要性、区民と共に歩む姿勢等の研修を行っている。交流会は、研修内容の振り返り、リーダー相互のコミュニケーション、指導上の課題等をリーダー同士で共有し解決できる場を提供している。

回数	月日	内　容	講師名	人数
1	4月23日	楽しい指導って、リーダーの原点指導員の指導体験	保健センター運動指導員	46
2	6月28日	「フレイル予防と食事」について講演	地域支援課　管理栄養士	50
3	8月26日	貯筋運動　プラス運動	日本女子体育大学 沢井史穂氏	52
4	12月19日	健康づくりと地域つながりを支えるリーダーの役割	長野県立大学准教授 今村晴彦氏	37
5	1月29日	椅子での体操や筋力トレーニング	保健センター運動指導員	45
6	2月25日	運動指導体験（指導計画書、報告書記載方法）	保健センター運動指導員	43

（３）実技講習会（自主活動団体インリーダー向け講習会）【4 回】

運動による自主活動を支援するため、運動実技プログラムを提供し、講習会で実施した運動実技プログラムの CD や DVD 教材を配布している。

回数	月日	内 容	講師名	人数
1	5 月 27 日	リズムダンス「東京ブギウギ」	保健センター運動指導員	43
2	6 月 28 日	筋トレ「楽しく筋力トレーニング」	保健センター運動指導員	50
3	9 月 24 日	リズム体操「瑠璃色の地球」「まつり」「ダンシングヒーロー」	健康運動指導士　中村由紀子氏	34
4	11 月 28 日	立位・座位ストレッチ　今年度総復習	保健センター運動指導員	35

（４）個別実習【30 人】

個別実習は、リーダー個々の指導スキル向上や適切なプログラム作成の習得を目的に、認定リーダーのおよそ半数を対象に毎年実施し、リーダーの派遣時には運動指導員がリーダーの指導を視察している。令和 6 年度は、登録リーダーのうち令和 5 年度未実施のリーダーと派遣指導回数が少ない順の 30 人（10 期生 11 人含む）に対して、視察とともに個別指導を行った。

（５）リーダーによる実地指導【316 回】

「せたがや元気体操リーダー」が運動指導員に代わり指導を行っている。令和 6 年度は、316 回派遣した。

（６）障害者地域支援

地域で活動する障害者団体を対象に、運動指導員を派遣し健康づくりのきっかけづくりや活動の活性化への支援を実施している。健康づくりのための運動実技や講話など、団体が希望する内容を実施し、令和 6 年度は、3 団体に合計 12 回の派遣支援を実施した。

今年度から、より多くの障害者団体に事業周知と健康づくりの機会を提供するために、世田谷区障害者連絡協議会や障害者イベントなどで積極的に周知を行った。

団体名（事業名）	会　　場	内　　容	回数	人数
さわやか体操 世田谷区視力障害者福祉協会	世田谷区 児童相談所	健康増進のための運動指導	6	36
池尻児童館との多世代交流事業	池尻アパート 集会室	児童、障害のある人、高齢者との多世代交流。ボッチャ・体操	5	67
九品仏 YY リハスポクラブ	九品仏 地区会館	体力測定 普段家でできる体操の話と実技	1	13
合　　計			12	116

６　生活習慣病の重症化予防を推進する取り組み

健康せたがやプラン（第三次）の課題の一つである望ましい生活習慣を継続するための支援に関する施策を補完し、生活習慣病を改善するための取組みとして実施している。

重症化予防対策

世田谷区の報告から健診受診後、高血糖・高血圧等のリスクがあっても肥満でない方は特定保健指導の対象外となり、重症化が進んでしまうことが懸念されている。そこで本事業は肥満、非肥満に関わらずリスクのある方を対象とし、該当者自身が早期に生活習慣病改善に取り組めるよう、世田谷区国保・年金課と協力した生活習慣病重症化予防の取り組みを行っている。

対象者：国民健康保険に加入している方で世田谷区国保・年金課より勧奨があった方
勧奨は a)特定保健指導の対象外、またメタボリックシンドロームに該当しない 40～70 歳で、b)空腹時血糖値 110～125mg／dl または HbA1c 6.0～6.4%の方

（１）派遣型集団指導「生活習慣実践まちかどゼミ」

内　　容：「血糖値が気になる方の食事と簡単筋トレ」（実技・講話）及び目標設定を行う。
実施回数：**6 回**

日程	会場	人数	日程	会場	人数
８ 月 ２ 日	梅丘パークホール	1	１２月１４日	北沢タウンホール	1
９ 月 ３ 日	玉川区民会館	2	１ 月１５日	成城ホール	3
１０月 ８ 日	烏山区民会館	2	２ 月１８日	三茶しゃれなあどホール	4

（２）個別指導「生活改善パーソナルサポート」



内　　容：生活習慣改善を目的とした個別指導。
初回・3 か月後・6 か月後に面談を行う。
実施人数：**9 人**

（３）電話支援「生活習慣改善実践お家でトライ」

内　　容：生活習慣改善を目的とした電話による個別指導。初回から 3 か月後に評価を行う。
実施人数：**2 人**

（４）動画配信

内　　容：概要編、運動編、食生活編、生活編の全 4 本を保健センターYouTube で配信。
視聴再生回数：**594 回**（概要編の視聴再生回数、運動編・食生活編・生活編の 3 本は含まず）

Ⅳ　健康教育事業（自主）

1　地域の健康づくりの基盤を広げる各種の取り組み

健康情報を発信するため、医師会、歯科医師会、薬剤師会等との共催で、イベントや講演会を実施している。

令和６年度は新型コロナウィルス感染症の影響により中止していた「8020 歯っぴぃフェスタ世田谷」を再開し、コロナ禍前に行っていた全ての事業を再開した。

（１）区民のための健康教室（世田谷区医師会、世田谷区との共催事業）

開催日	内　　容	講師	人　　数
４月　４日	講演会「小６－26 歳の女性必見：ＨＰＶワクチンの話」	関東中央病院産婦人科 医長　　稲葉　可奈子	会場 19　Web20 相談 2
７月２０日	講演会「脂質代謝～遺伝と生活習慣の対応の仕方～」	三宿病院 副院長　伊藤　利光	会場 50　Web5 相談 4
１０月１９日	講演会「大腸がんについて知っておきたいこと～大腸がんは最も身近ながんです～」	杏林大学医学部付属病院 副院長　須並　英二	会場 26　Web6 相談 1
令和７年 １月１７日	講演会「認知症、頭打ちへの挑戦」	東京慈恵会医科大学付属第三病院　脳神経内科 診療部長　仙石　錬平	会場 87　Web17 相談 8

（２）８０２０歯っぴぃフェスタ世田谷

世田谷歯科医師会、玉川歯科医師会、世田谷区との共催事業として、区民の歯科衛生の普及・啓発を図るためのイベントを実施した。

開催日	会　場	内　　容	人　　数
１０月２７日	三軒茶屋 キャロットタワー	講演会「僕の人生、落語だよ！」 講　師：林家　木久扇	150
		8020 表彰、食育講座、歯磨き指導等	

（３）くすりと健康のつどい

１０月の「薬と健康の週間」の一環として世田谷薬剤師会、玉川砧薬剤師会、世田谷区との共催事業として実施した。

開催日	会　場	内　　容	件　　数
１０月２６日	産業プラザ	薬の相談、体成分分析測定、血圧測定	183（他相談 20）

（４）保健センター主催の講演会・講習会

開催日	内　　容	人数
８月　５日	「よく噛むことから毎日の健康を考える」 講師：和洋女子大学　　柳沢　幸江	14
１０月　３日 （夜間）	「坐禅体験講座（夜間）」 講師：駒澤大学仏教学部　　舘　　隆志	31
１０月１２日 （土曜）	「坐禅体験講座（土曜）」 講師：駒澤大学仏教学部　　横山　龍顯	34

２　健康教育指導

「運動コース」および「マシントレーニングコース」は、主に教室終了者の継続支援として実施している。運動コースは、定員40人で週8種類のコースを開催している。マシンコースは、定員12人で午前2コース・午後3コースを平日の月曜日から金曜日に開催している。

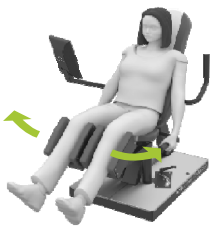
令和6年度は、運動コースを年間401回、マシンコースを年間1211回実施した。また、マシンコースで予約優遇制度のある障害者利用登録は4人であった。（令和2年度からの累積は68人）

運動コース	定員	回数	人数	１回あたりの人数
さわやかヨーガ	40	50	1839	36.8
わくわく体操火曜	40	50	1869	37.4
スマイルエアロ	40	51	1878	36.8
わくわく体操水曜	40	51	1887	37.0
エンジョイダンス	40	50	1832	36.6
のんびり体操木曜	40	50	1855	37.1
のんびり体操金曜	40	50	1770	35.4
ゆったり太極拳	40	49	1785	36.4
合計		401	**14715**	36.7

マシンコース	定員	回数	人数	1回あたりの人数
Ａコース午前9:00～	12	242	2656	11.0
Ｂコース午前10:20～	12	242	2620	10.8
Ｃコース午後1:10～	12	243	2572	10.6
Ｄコース午後2:30～	12	242	2585	10.7
Ｅコース午後3:50～	12	242	2454	10.1
合計		1211	**12887**	10.6

●Ａ～Ｅコースは平日（月～金曜日）の毎日開催

●マシンコースの使用機器（下図）/その他5機種設置



３　出張指導（区委託）

世田谷区をはじめ、民間企業、地域団体からの依頼にもとづき、運動指導員、管理栄養士、保健師、看護師の専門職員を派遣している。

（１）世田谷区高齢福祉部介護予防・地域支援課からの委託

内　容	派遣人数	参加人数
① 介護予防筋力アップ教室（3 教室）	108	172
② はつらつ介護予防講座	82	641
③ 地域づくりによる介護予防支援事業	5	43

① 介護予防筋力アップ教室**【3 教室】**

この教室は、要支援認定者等を対象とし、介護予防に必要な運動、食事、認知症予防、社会参加について学び、日常生活に取り入れ習慣化することが目的である。テキストに沿って運動指導員、管理栄養士、保健師、理学療法士、言語聴覚士が講話と実技をおこない、参加者同士のコミュニケーションを図りながら、終了後も継続して社会参加へ繋がるように支援している。

② 普及啓発講座（はつらつ介護予防講座）**【2 地区】**

この事業は 65 歳以上で介護予防に関心がある区民が参加し、「世田谷いきいき体操」の運動を中心に尿失禁予防、食生活、お口の健康、認知症予防、地域での社会参加など、介護予防に必要な知識を地域の高齢者へ普及するため、あんしんすこやかセンターの職員と協力して実施している。スタッフは運動指導員、理学療法士、管理栄養士。令和 6 年度は、区内 28 地区のうち、船橋地区と上祖師谷地区の 2 か所を担当した。

③ 地域づくりによる介護予防支援事業**【5 団体】**

地域住民が運営する身近な「通いの場」を充実させるため、グループの立ち上げと、「世田谷いきいき体操」の実技指導や体力測定を行い、地域で介護予防の取り組みを促すことを目的に支援している。令和 6 年度は、この事業での立ち上げグループはなく、既存のグループと、はつらつ介護予防講座修了生の自主グループの新規立ち上げに支援した。

（２）高齢者の運動習慣定着支援事業（世田谷保健所健康企画課から受託）【4 団体】

世田谷区の「高齢者の地域参加促進施策」の取り組みプロジェクトの一つとして、令和 3 年度より受託している。高齢者クラブを対象に健康づくり指導や運動の習慣化の働きかけを行い、コロナ禍での引きこもり防止やフレイル予防を図ることを目的とし運動の定着化を働きかけている。令和 6 年度は、4 団体に 20 回支援した。

支援団体（4 団体）	池尻長寿会、光寿会、奥沢楽友会、下馬明和会
派遣回数	20 回
参加人数	実人数 75 人・述人数 224 人

（３）その他の出張指導　【参加人数 810 人】

（１）（２）の受託のほかに、それぞれの団体からの依頼にもとづき、専門職員を派遣している。世田谷区総務部職員厚生課から依頼の区立保育園職員対象の腰痛予防教室や、体成分分析測定を行うイベントなど、平日や夜間、休日にも派遣している。令和 6 年度は 9 事業所に 28 人の専門職員を派遣した。

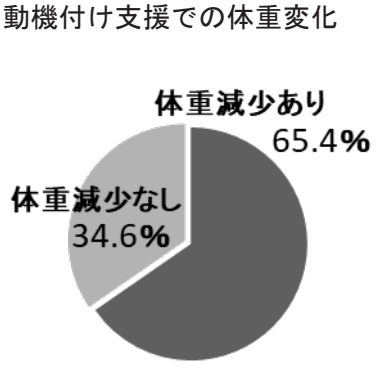
	委託先	内　容	派遣人数	参加人数
1	世田谷区総務部職員厚生課	保育園職員の訪問腰痛予防教室	12	186
2	(公財)世田谷区産業振興公社	栄養と運動のオンラインセミナー	4	229
3	(株)世田谷サービス公社	梅丘げんき講座「はじめての太極拳」	4	106
4	深沢地区身近なまちづくり推進協議会	気功体操	2	70
5	奥沢地区社会福祉協議会	体成分分析測定会	1	125
6	神興建設株式会社	体成分分析測定、体力測定、運動実技	2	35
7	世田谷ウォーキングフォーラム	ポールウォーキング	1	18
8	世田谷区介護予防・地域支援課	スキルアップ研修「地域づくり」	1	35
9	株式会社 UR リンゲージ	イベント内での運動指導	1	6

4　特定保健指導（区委託ほか）

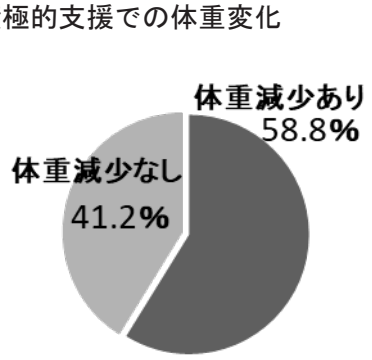
世田谷区国民健康保険特定健康診査結果にもとづく特定保健指導（動機付け支援・積極的支援）を受託し、世田谷区より利用券が送付された方を対象に実施している。令和６年度の実施状況は、初回面談利用者 103 人であった。（動機付け支援 79 人、積極的支援 24 人）

動機付け支援			積極的支援		
初回面談	途中脱落	最終評価	初回面談	途中脱落	最終評価
79	0	70	24	2	21

保健指導の結果、体重減少がみられたのは、動機付け支援で 65.4%（男性 70.0%、女性 60.5%）《グラフ 1》、積極的支援では 58.8%（男性 57.1%、女性 66.7%）《グラフ 2》であった。



《グラフ 1》



《グラフ 2》

※グラフ 1、2 は令和 5 年度特定健診を受診し、保健指導を受けた方の内訳





Ⅴ　保険診療等による検査事業（自主）

医療機関からの依頼による、各種検査及びがん検診からの要精検者について精密検査を行っている。令和６年度の各科領域における検査件数・受診者数は、下表のとおりであった。

◎保険診療による医療機関受託検査事業実績

※[　　]の数字は内視鏡検診の精密検査数［別計上］

区　分			実施件数		
			検査総数	がん検診からの精密検査	がん検診精密検査以外の検査
消化器	胃	胃内視鏡検査	**553**	7	546
		病理組織検査	**162 [5]**	3［5］	159
	大腸	内視鏡検査	**155**	7	148
		病理組織検査	**54**	2	52
乳房	一般撮影		**299**	119	180
	スポット撮影		**4**	3	1
	超音波検査		**377**	180	197
	細胞診検査		**2**	1	1
子宮	細胞診検査		**138**	56	82
	コルポスコープ		**138**	56	82
	病理組織検査		**137**	56	81
一般精密	MRI		**1709**	—	1709
	CT		**1799**	—	1799
	腹部超音波検査		**273**	—	273
心臓	ホルダー心電図		**29**	—	29
	超音波検査		**173**	—	173
合　計			**6002**	**490**	**5512**

１　胃（上部消化管）精密検査

内視鏡検査と病理組織検査があり、いずれも胃を中心にその前後の食道、十二指腸などを診断する。内視鏡は、医用画像デジタルファイリングシステムを導入、ハイビジョンの鮮明画像を用いて高精度な診断のサポートを行っている。受診者の負担軽減のために希望に応じて鎮静剤使用を行うなど、サービスの向上に努めている。

◎検診以外の精密検査集計

区分	受診者数（実人数）	異常なし	有所見者数	疾　病　内　訳（所見複数記載）						
				胃がん	食道がん	胃潰瘍	十二指腸潰瘍	びらん	ポリープ	胃炎
総数	**542**	**5**	**537**	**5**	**1**	**9**	**6**	**261**	**203**	**363**
男性	226	0	226	2	0	6	5	125	85	147
女性	316	5	311	3	1	3	1	136	118	216

2　大腸（下部消化管）精密検査

胃検査と同様に、内視鏡・病理組織を実施している。原則、全例に鎮静剤・鎮痛剤を使用し、回盲部までを短時間で検査するため、受診者への負担も軽くすんでいる。発見された病変部は上部内視鏡と同じく生検により病理組織診断を下している。

※表中の数は検診外の精密検査の集計

区分	受診者数（実人数）	異常なし	有所見者数	疾病内訳（所見複数記載）					
				大腸がん	ポリープ	潰瘍性大腸炎	粘膜下腫瘍	大腸憩室	痔核
総数	**148**	**25**	**123**	**3**	**89**	**2**	**1**	**86**	**8**
男性	78	9	69	2	52	2	1	51	6
女性	70	16	54	1	37	0	0	35	2

3　乳房精密検査

乳がん検診の精密検査や医療機関からの検査依頼を受け、問診・視触診、マンモグラフィ（エックス線検査）や乳房超音波検査などを行い、必要に応じてスポット撮影や穿刺吸引細胞診検査を施行し総合的診断を実施している。

トモシンセシス（撮影した画像データを再構成し、乳房内部の断面像を作る機能）が可能なマンモグラフィ装置、エラストグラフィー（腫瘤の硬さを色で判別する機能）が可能な超音波診断装置を用いることで、検査精度を向上させている。

有所見者数の受診者 155 人のうち、6 人が乳がん（疑い）と診断された。その他の疾患として 29.0%の受診者に線維腺腫等の腫瘤性病変が指摘され、また全体の 49.0%が乳腺症（のう胞を含む）と診断されている。

※表中の数は検診外の精密検査の集計

受診者数（実人数）	総数		疾病内訳（所見複数記載）							
	異常なし	有所見者数	乳がん	乳がん疑い	線維腺腫	乳腺腫瘤	乳腺のう胞	乳腺症	石灰化	女性化乳房
173	18	155	0	6	8	37	37	39	54	1

4　子宮精密検査

問診・内診・細胞診を行った後、コルポスコープ診（内視鏡）で認めた異常所見部位の組織検査を実施している。子宮がんの発見及び診断を目的とした検査であり、検診からの精密検査依頼が多く、経過観察の検査依頼も受けている。

※表中の数は検診外の精密検査の集計

受診者数（実人数）	総数		疾病内訳（所見複数記載）						
	異常なし	有所見者数	子宮頸がん	上皮内がん	高度異形成	中等度異形成	軽度異形成	頸管炎	その他
62	8	54	0	0	3	15	26	7	3

５　一般精密検査

（１）ＭＲＩ検査　（ＭＲＩ：磁気共鳴撮影）

ＭＲＩ検査は、強力な磁場を利用して画像を作成し診断する。保健センターでは静磁場強度３.０テスラの装置を利用し任意の断面や様々なコントラスト（T1 強調、Ｔ２強調、拡散強調、水・脂肪抑制など）を画像化している。また、造影剤を使わずに血管（ＭＲＡ）や胆・膵管（ＭＲＣＰ）を立体的に描出することが可能である。

通常の検査に加え、頭部においてはＶＳＲＡＤ（早期アルツハイマー型認知症診断支援システム）を用いた画像解析の情報を提供しているほか、腹部ではＥＯＢ（肝細胞特異性を有する造影剤プリモビストを使用）検査を行っており、通常のＣＴ・ＭＲＩ検査では診断が困難な肝臓病変に対して有効な手段となっている。また、受診者の利便性を考慮し、夜間の時間帯にＭＲＩ検査を月２回実施している。

◎ＭＲＩ検査実施状況

区　分	総　数	頭　部	躯　幹(脊椎含む)		四　肢
検 査 数	1,709	684	852		173
受診者数(実人数)	1,666（男 652、女 1,014）				
有所見者数	1,384	381	284	571	148
異常なし	282	167	44	49	22

造影剤使用 ――― 4 件
腹部(ＭＲＣＰ) ― 262 件
ＶＳＲＡＤ――― 54 件

＊連続する 2 部位を撮影した場合、検査数は 2 としているため検査数と受診者数（実人数）が異なっている。

◎ＭＲＩによる主な疾病内訳（所見複数記載）

（頭部）

疾病名	人数
脳内出血	13
硬膜下血腫	4
脳梗塞	29
脳梗塞(陳旧性)	86
脳動脈瘤	51
動脈狭窄	3
副鼻腔炎	48

（腹骨盤部）

疾病名	人数
膵管内乳頭粘液性腫瘍	85
膵腫瘍	4
肝血管腫	25
卵巣腫瘍	3
前立腺腫瘍	4
子宮筋腫	7
胆嚢腺筋症	39

（脊椎）

疾病名	人数
椎間板ヘルニア	186
脊柱管狭窄症	180
脊椎症	272
圧迫骨折	89
辷り症	85
肩腱板損傷	29
肩関節周囲炎	7

（四肢）

疾病名	人数
靭帯断裂・損傷	21
半月板断裂・損傷	61
ガングリオン	13
変形性関節症	24
骨折	9
骨挫傷	3
関節液貯留	8

（２）ＣＴ検査（ＣＴ：コンピュータ断層撮影）

128スライスＣＴ装置によって詳細な画像データを収集し、横断面のほかに任意の断面画像の再構成や３Ｄ画像を作成することが可能である。また、低線量、短時間で広範囲の検査が可能であり、短い息止め時間によって受診者への負担も軽減されている。

なお、ＭＲＩ検査同様に月２回、夜間の時間帯の検査も行っている。

◎ＣＴ検査実施状況

区分	総　数	頭　部	躯幹	四肢
検査数	1,799	156	1,619	24
受診者数(実人数)	1,689（男 734、女 955）			
有所見者数	1,083	75	1,008	
異常なし	606	76	530	

造影剤使用 ――― 31 件
健診・検診要精検からの
CT 精密検査数―― 565 件

＊連続する 2 部位を撮影した場合、検査数は 2 としているため検査数と受診者数（実人数）が異なっている。

◎ＣＴによる主な疾病内訳（所見複数記載）

（頭部）

疾病名	人数
硬膜下血腫	6
脳梗塞(陳旧性含む)	11
脳萎縮	8
副鼻腔炎	25
脳腫瘍	1

（躯幹部）

疾病名	人数	疾病名	人数
肺腫瘍	30	肝機能障害	115
肝腫瘍	29	子宮筋腫	21
副腎腫瘍	15	卵巣腫瘍	5
肺炎症性変化	515	結石(肝・胆・膵・尿管その他)	49
非結核性抗酸菌症	29	動脈瘤	13

（３）超音波検査（腹部、甲状腺、頸動脈）

超音波を体内の臓器にあてその反射をコンピューターで画像化し、臓器の実質を断層画像として診断する検査で、血流走行等をリアルタイム描出できるカラードプラ機能のほか、肝硬変の診断及び経過観察に有効なエラストグラィー機能を搭載した超音波診断装置を使用している。検査対象として肝臓や胆のう、膵臓、腎臓のほかに甲状腺、頸動脈でも実績を上げている。

◎超音波検査実施状況

検査数	273
受診者数（実人数）	264
有所見者数	49
異常なし	215

区分	腹部	甲状腺	頸動脈
内訳	162	52	59

◎超音波検査による主な疾病内訳（所見複数記載）

（腹部）

疾病名	人数
胆のうポリープ	16
脂肪肝	80
膵腫瘍	1
腎腫瘍	1
肝のう胞	25
腎のう胞	31
胆石	16
腎結石	10

（甲状腺）

疾病名	人数
甲状腺腫瘍	4
腺腫様甲状腺腫	25
甲状腺炎	7
甲状腺のう胞	9

（頸動脈）

疾病名	人数
頸動脈硬化症	41

６　心臓検査

心臓検査では、ホルター心電図（24 時間心電図）及び心臓超音波（エコー）検査を行っている。ホルター心電図では、小型で入浴やシャワーも可能な記録装置を使用し、受診者の利便性にも配慮している。心臓超音波検査では、循環器向けの高精度プローブを搭載した装置使用し、高分解能の画像を得ることができる。

超音波検査受診者の有所見者数は、107 人であった。このうち弁異常が多く指摘されている。

◎心臓検査実施状況と主な疾病内訳

区分	ホルター心電図	心　臓超音波
検査数	29	173
受診者数(実人数)	29	170
有所見者数	14	107
異常なし	15	63

◎主な疾病内訳（所見複数記載）

（心臓超音波）

疾病名	人数
大動脈弁異常	70
僧帽弁異常	34
肺動脈弁異常	2
三尖弁異常	13
高血圧性心疾患	8
心 筋 症	6
心筋梗塞	2

Ⅵ　料金規程等による事業（自主）

保健センター料金規程に基づき、各種検査、健康診断、測定を実施している。

新型コロナウィルス感染症の影響により受診者数が減少していたが、営業活動や広報紙でのＰＲによりコロナ禍前の実績に戻ってきている。

１　小中学生心臓精密検査（世田谷区医師会・玉川医師会委託）

地域医師会の依頼により区立小中学校の心臓一次検診で要検査となった児童・生徒に対し、心臓二次検診を実施している。令和６年度の受診者数は世田谷区医師会 69 人、玉川医師会 21 人であった。

世田谷区医師会依頼分

区分	人数
受診者数	**69**
安静時心電図	69
胸部エックス線	58
トレッドミル負荷心機能検査	44

玉川医師会依頼分

区分	人数
受診者数	**21**
安静時心電図	21
胸部エックス線	21
負荷心電図検査	18

２　小中学生結核検診精密検査（世田谷区教育委員会委託）

世田谷区教育委員会の依頼により世田谷区立小中学校生徒のうち、結核発生地域からの帰国子女等、精密検査が必要とされる児童生徒および三宿中学校夜間学級の生徒に対して、胸部エックス線撮影による精密検査を実施している。

区分	人数
小・中学生	**201**
三宿中学校夜間学級	**29**

３　健康診断

健診パターンとしてＡ・Ｂ・Ｃ・特定事業の 4 パターンを設定している。健診内容については、健診Ａは、胸部Ｘ線・尿検査と診察などの簡易な健診。健診Ｂは、労働安全衛生法に基づいた血液検査が含まれている健診である。 健診Ｃは、血液検査の項目が健診Ｂよりも多く含まれ、生活習慣病予防の健診として企業に勧めている。（健診Ｃは企業のみ対象）

また、特定事業は従業員の多い企業の要望に合わせた健診となっている。その他は、受診者・企業の要望に合わせたオプション検査も用意している。令和６年度の全受診者数 2,434 人の内訳は、個人健診 303 人（12.4%）、企業健診 2,131 人（87.6%）であった。

健康診断受診者数内訳　（人）

区分	総数	健診Ａ	健診Ｂ	健診Ｃ	特定事業	その他
個人健診	303	66	237			0
企業健診	2,131	46	433	265	1,103	284
計	**2,434**	**112**	**670**	**265**	**1,103**	**284**

※令和 6 年度の障害者施設の健康診断は 3 施設（71 人）であった。（上記の表に含む）

４　脳ドック

脳ドックでは、MRI・MRA による画像検査を主検査として「無症候・未発症」の脳および脳血管疾患とその危険因子を発見し、生活習慣の見直しなどによる「疾患予防のアドバイスをおこなうこと」を目的としている。

検査コースは２つあり、どちらも診察・結果説明は専門医が行っている。

○Ａコース（１日目　火曜日、２日目　土曜日）

１日目　血液検査、尿検査、胸部Ｘ線検査、安静時心電図、動脈硬化検査、頸部血管超音波検査
認知機能のスクリーニング検査（50 歳以上希望者）

２日目　頭部 MRI・MRA 検査、問診、診察、結果説明

※50 歳以上の方には、頭部 MRI 検査時に VSRAD（早期アルツハイマー型認知症診断支援システム）を用いて画像解析を行っている。

○Ｂコース（土曜日）

頭部 MRI・MRA 検査、頸部 MRA 検査、問診、診察、結果説明

※Ｂコースオプション…頸部血管超音波検査・動脈硬化検査

◎脳ドック男女、年齢別受診者状況

年齢	受診者数		
	計	男	女
30 歳以下	0	0	0
31～40 歳	1	1	0
41～50 歳	7	5	2
51～60 歳	23	9	14
61～70 歳	49	27	22
71～80 歳	70	26	44
81 歳以上	22	8	14
合計	**172**	**76**	**96**
Ａコース	82		
Ｂコース	90		
（Ｂオプション）	(35)		

◎脳ドックにおける重要な疾患と発見された主な疾患

疾病名	例数
無症候性脳梗塞	4
未破裂脳動脈瘤（疑い含む）	2
無症候性頭蓋内および頸部血管閉塞・狭窄	1
頸動脈プラーク	61
脳血管動脈硬化性変化	6
頚動脈壁肥厚(IMT 高値)	34
脳梗塞（陳旧性含む）	8
深部脳白質病変	7
微小脳出血	8
血管周囲腔の拡大	12
頭蓋内腫瘍	1
下垂体病変	3
耳鼻科疾患（副鼻腔炎・中耳炎）	7
海綿状血管腫(疑い含む)	3

◎危険因子から見た脳疾患保有率

Ⅰ:無症候性脳梗塞　Ⅱ：未破裂脳動脈瘤（疑い含む）Ⅲ：微小脳出血　Ⅳ：頸動脈プラーク

危険因子	受診者数	Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ	
		該当数	%	該当数	%	該当数	%	該当数	%
高血圧	89	2	2.2	2	2.2	7	7.9	41	46.1
糖尿病	14	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	57.1
高脂血症	68	3	4.4	2	2.9	4	5.9	29	42.6
肥満	25	0	0.0	0	0.0	2	8.0	11	44.0
喫煙	9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	33.3
飲酒	91	1	1.1	1	1.1	4	4.4	30	33.0
家族歴	54	2	3.7	1	1.9	1	1.9	20	37.0
クモ膜下出血家族歴	14	0	0.0	1	7.1	0	0.0	4	28.6
危険因子なし	52	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	3.8
実人数	**171**	**4**		**2**		**8**		**61**	

＊危険因子が複数該当する場合、受診者１名に対し、複数集計している。
R6 年度中に脳ドックを２回受診された方がいるため、受診者数と実人数が異なっている。

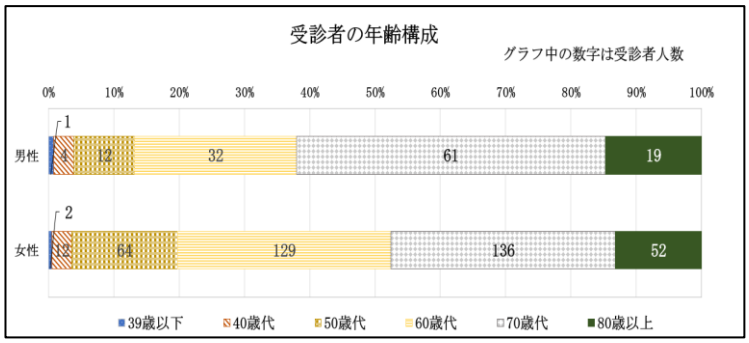
5　動脈硬化検査　【受診者数　524 人】

動脈硬化検査（血圧脈波検査）は、動脈硬化性変化の把握と異常の早期発見により、受診者が自分の血管の状態を知り、生活習慣改善の必要性を理解し取り組んでもらうことを目的に実施している。

結果については、医師による説明と動脈硬化予防（食事や運動などの生活習慣改善や危険因子の管理等）のアドバイスを行っている。

（1）受診状況

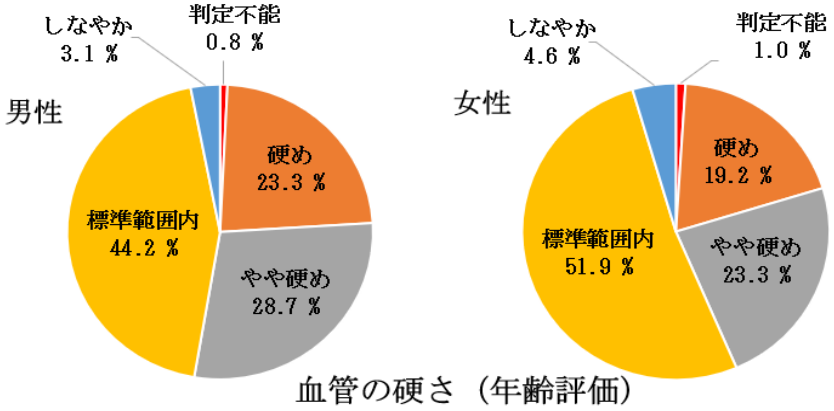
受診者数は 524 人で、男性 129 人（平均年齢 70.5 歳）、女性 395 人（平均年齢 68.3 歳）であった。
受診者は男女とも 70 歳代が多かった。



（2）血管の硬さ

baPWV（脈波伝播速度：血管の硬さ）は、男女とも 40 歳代から基準値 1400cm/sec を超え、この年代よりも若いうちから高血圧や脂質異常、糖尿病、喫煙などの動脈硬化のリスクを軽減することが重要である。

血管の硬さは同性同年齢と比較して評価している。血管の硬さが「硬め」の割合は、男性 23.3%、女性 19.2%であった。「やや硬め」の割合は男性 28.7%、女性 23.3%であった。また、ABI※低値（0.90 以下）により判定不能が男性 0.8%、女性 1.0%であった。　※以下の（3）参照



血管の硬さ（年齢評価）

（3）血管の詰まり

ABI（足関節上肢血圧比：血管の詰まり）では、ABI 低値（0.90 以下）により血管の詰まり（狭窄）が疑われたのは男性 1 人、女性 4 人であった。ABI 高値（1.40 以上）で血管の石灰化が疑われたのは 2 人であった。

6　体成分分析測定　【受診者数　199 人】

体成分分析測定は、体脂肪量・骨格筋量・四肢と体幹部の筋肉量とバランス・むくみ・内臓脂肪レベル等が把握でき、内臓脂肪レベル 10 は内臓脂肪断面積 100 ㎠に相当することから、メタボリックシンドロームの啓発にも有用である。令和 6 年度の受診者数は延べ人数 199 人（実人数 156 人　男性 42 人 平均年齢 64.3 歳・女性 114 人 平均年齢 64.4 歳）であった。また、保健センターの料金規程事業として実施のほか、地域で開催される健康づくり支援・各種フェスティバル・イベントなど、様々な事業においては無料で実施し、健康づくりを始める動機付けなどに活用している。

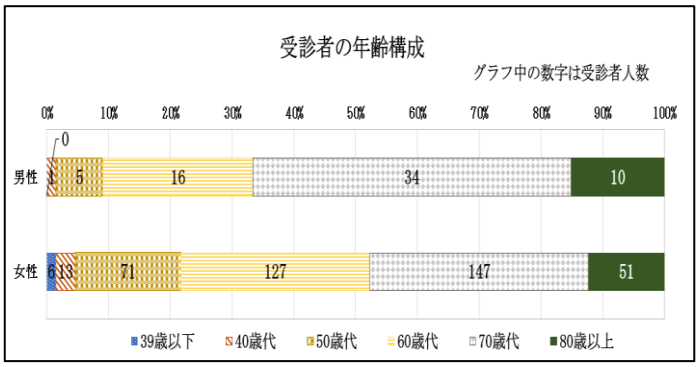
7　骨密度測定　【受診者数　481 人】

骨粗しょう症の予防・早期発見を目的に、超音波による踵骨測定を行い、医師による測定結果の説明とアドバイスを行っている。

（1）受診状況

受診者数は 481 人で、男性 66 人(平均年齢 71.7 歳)、女性 415 人(平均年齢 67.6 歳)で、女性が 86.3%を占めていた。

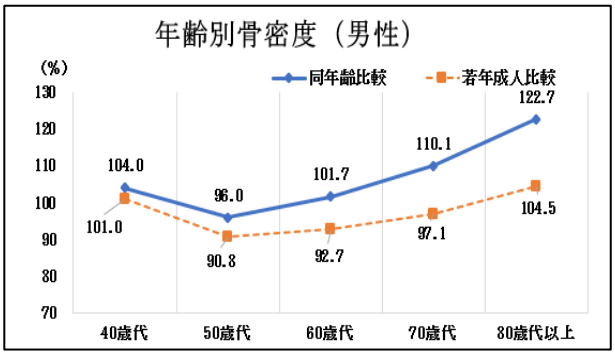
年齢分布は男性が 45 歳から 88 歳、女性は 21 歳から 89 歳であった。年齢構成では男女ともに 70 歳代が最も多くなっていた。

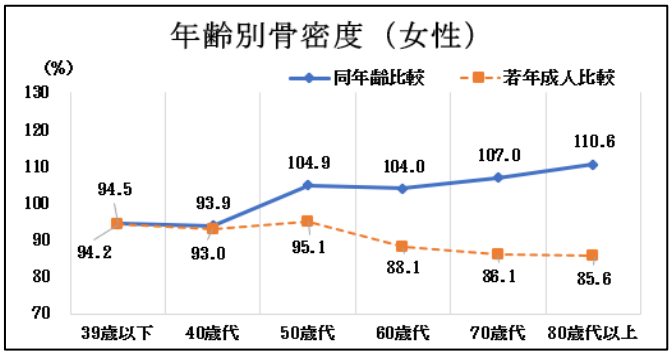


（2）測定基準

若年成人比較(YAM)の値が下がるほど骨密度が減少していることを示しており、使用機器(富士フイルム AOS-100SA)では「A:異常なし」「B:要指導」「C:要精検」に分類される。

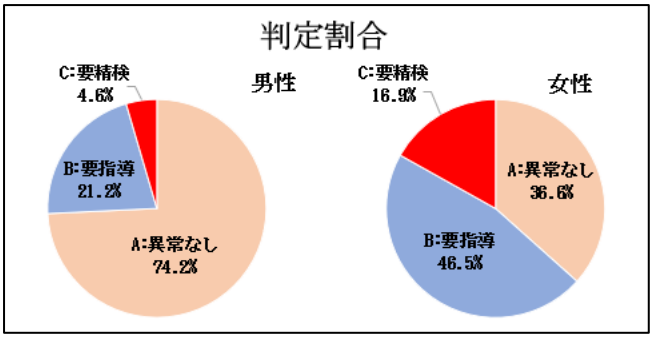
（3）測定結果

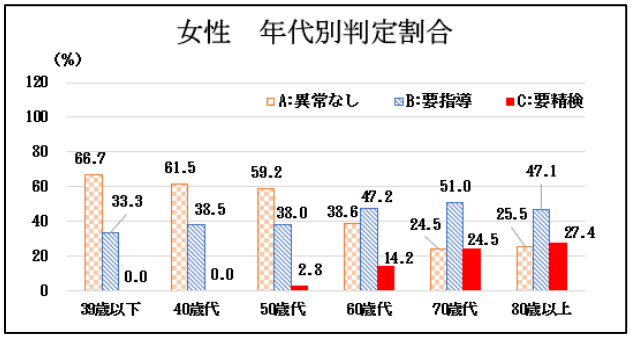




同年齢比較は男性平均 108.8%、女性平均 105.6%であった。若年成人比較(YAM)では、女性の YAM 値は年齢とともに低下し、60 歳代以降は 90%を下回っており 80 歳代以上で最も低く 85.6%であった。男性においてはどの年代も 90%以上を維持できていた。

「 B：要指導 」の割合は男性 21.2%、女性 46.5%、「 C：要精検 」の割合は男性 4.6%、女性 16.9%でどちらも女性が多くなっていた。女性の年代別判定割合では、50 歳代以降に「 C：要精検 」がみられ、最も多い 80 歳以上では 27.4%であった。





測定に加え、職員が作成した「骨粗しょう症の予防について」の冊子を予防・改善のアドバイスに活用し、加齢と閉経が骨粗しょう症の大きなリスクであることの周知と、食事と運動のバランスについての説明を行った。また、所内の健康づくり講座(カルシウムアップ講座など)への参加をすすめた。

第五　専門相談課事業

Ⅰ　障害者相談支援事業（区指定管理）

保健センターは、専門医・専門職による専門相談機関として、様々な相談機関と連携し、多様なニーズに対応している。また、東京リハビリテーションセンター世田谷とは、保健医療福祉の拠点施設としての連携を図っている。

＜世田谷区における障害に関する主な相談窓口＞

	相談窓口		主な相談
28地区	福祉の相談窓口（あんしんすこやかセンター等）		障害､介護等に関する福祉の困りごとなどの相談
5地域	総合支所保健福祉センター	保健福祉課	障害福祉サービス利用に関する相談等
		健康づくり課	健康に関する相談等
		生活支援課	生活に関する相談等
		子ども家庭支援課	子どもとその家庭に係る相談等
	地域障害者相談支援センター「ぽーと」		障害に関する相談全般
	子育てステーション発達相談室		児童の発達障害に関する相談等
区内全域	指定特定相談支援事業所		サービス等利用計画の作成等
	指定障害児相談支援事業所		障害児支援利用計画の作成等
	指定一般相談支援事業所		入所施設・精神科病院等からの退所・退院にあたっての支援等
	発達障害相談・療育センター「げんき」		発達障害に関する相談等
	児童相談所		愛の手帳申請受付等児童に関する相談
	介護保険居宅介護支援事業所		ケアプラン作成等

区民

保健センター専門相談課

区民からの相談や各相談機関経由の相談について、専門医・専門職※による評価に基づき助言を行うとともに、適切な支援機関や社会資源につないでいる。

※専門職　言語聴覚士、公認心理師等、作業療法士、社会福祉士、視覚障害指導、保育士、理学療法士、看護師

保健医療福祉の拠点施設「うめとぴあ」

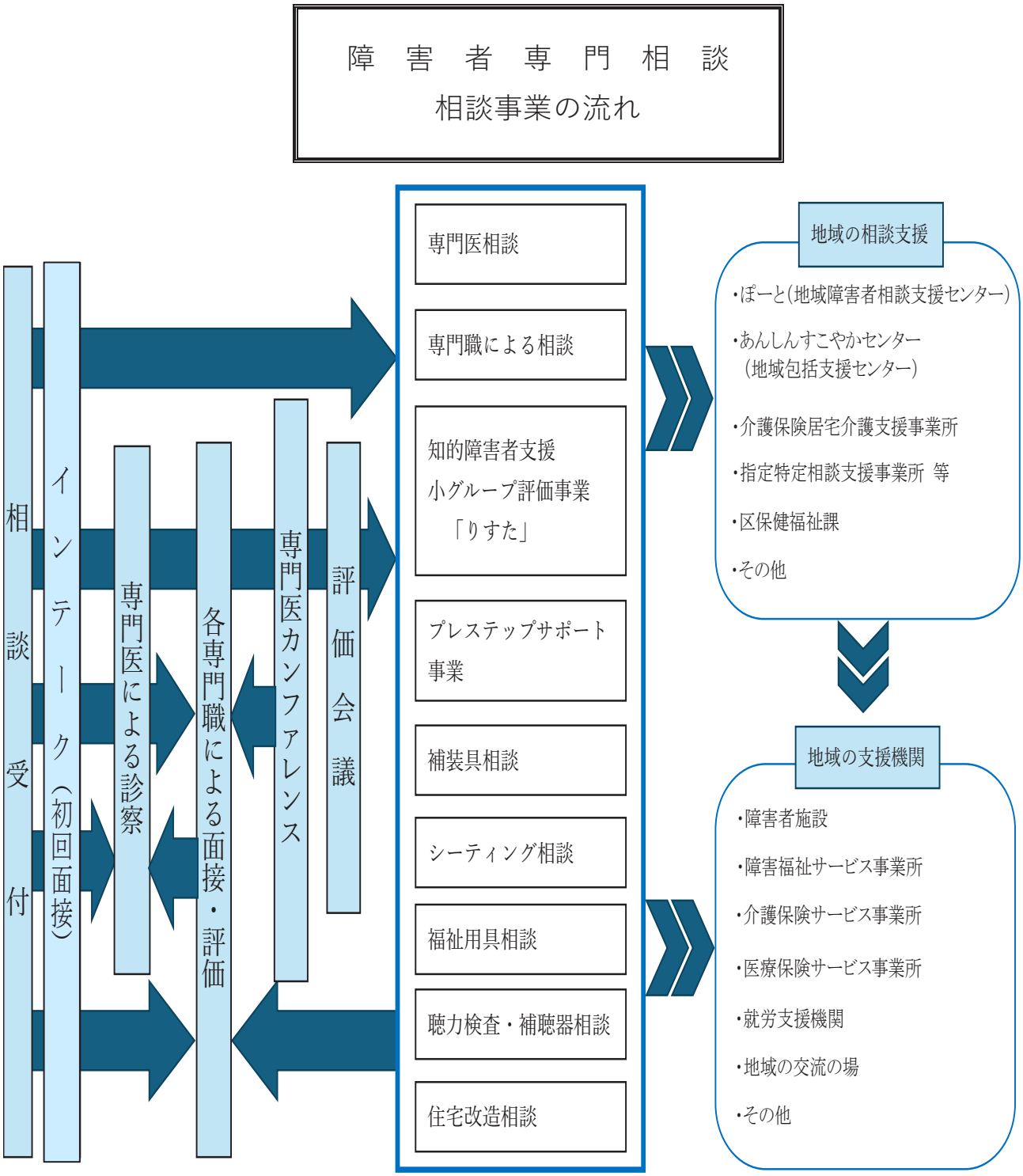
東京リハビリテーションセンター世田谷

（自立訓練、児童発達支援等）

1　障害者専門相談

（1）相談支援事業

各種相談事業は、区民や関係機関（各総合支所保健福祉課・健康づくり課・あんしんすこやかセンター・地域障害者相談支援センター・介護保険事業所・相談支援事業所・障害者施設等）からの障害に関する様々な相談に応じている。また、必要に応じて、専門職が、家庭や施設を訪問して相談に応じている。



○各種相談

事業 担当（職種）		実施日	内容
専門医相談	整形外科	2回/月	○障害のある方の医療に関する相談 ○身体障害者手帳診断 ○車椅子・補聴器・眼鏡・拡大鏡等の補装具意見書作成 ○相談会の実施
	耳鼻咽喉科	1回/月	
	眼科	1回/月	
	脳神経内科	1回/2か月	
	精神神経科	1回/月	
	リハビリテーション科	1回/月	
	高次脳機能障害 リハビリテーション科	1回/月	
	高次脳機能障害 精神科	1回/2か月	
専門職による相談 理学療法士・作業療法士 言語聴覚士・公認心理師 視覚障害指導・社会福祉士 看護師		随時 予約制	○障害に関することや障害による日常生活での困りごとに関する相談（身体・聴覚・視覚・知的・発達・難病・高次脳など）
知的障害者支援小グループ評価事業「りすた」 公認心理師・社会福祉士 看護師		週2回 おおむね 3か月間 火・金	○環境の変化や障害特性等による集団生活への適応が難しい方等を対象に、社会参加に向けた生活環境の整備や人との接し方の工夫について相談・助言・指導を行う。
プレステップサポート事業 理学療法士・作業療法士 社会福祉士・看護師		第3木	○脳血管障害などで身体に中途障害がある方を対象に、医師の診察や専門職評価に基づき、その方に適した余暇活動等の情報提供などを行い、社会参加のきっかけをつくり（プレステップ）、地域での持続可能な健康づくりをサポートする。
補装具相談 理学療法士		第2・4木	○補装具（下肢装具、車椅子等）の相談（装具が体にあっているかや修理など）
シーティング相談 理学療法士・作業療法士		随時	○障害のある方や高齢の方からの、体に負担をかけない、目的に合った座り方の相談 ○ご本人にあった車椅子の作製や姿勢保持装置の相談
福祉用具相談 理学療法士・作業療法士 視覚障害指導・言語聴覚士		随時	○福祉用具・日常生活用具の活用についての相談 ロービジョンエイド（視力障害の方の補助用具）・コミュニケーションエイド（言語や聴覚に障害のある方が意思を伝えるための補助用具）・車椅子・下肢装具・杖・白杖・補聴器・その他
聴力検査・補聴器相談 言語聴覚士		随時	○聞こえに関する相談 ○聴力検査と必要に応じた補聴器の試聴
住宅改造相談 理学療法士・作業療法士		随時	○自宅を訪問し、手すりの取り付け位置や段差解消、安全な動線の確保、福祉機器や用具の導入、介助方法などの相談に応じる。

○相談受付件数　（件）

相談受付	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
	1,129	1,360	1,540	1,576	**1,411**

○相談の主訴別内訳　（件）

主訴別内訳	医療・手帳	評価・相談	聴力検査	住環境	補装具 日常生活用具	福祉・生活その他	**計**
件数（新規）	**221 (48)**	**452 (128)**	**168 (128)**	**143 (84)**	**815 (104)**	**420 (5)**	**2,219 (497)**

※重複あり

○新規相談者の障害別内訳　（件）

障害の原因	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
脳性麻痺	3	3	4	9	**4**
脳血管障害	43	30	58	48	**79**
脳腫瘍	2	3	4	3	**2**
神経筋疾患(含指定難病)	5	8	28	27	**19**
自己免疫疾患（含リウマチ)	0	3	0	2	**1**
脊髄損傷(四肢麻痺)	4	1	1	2	**2**
脊髄損傷(対麻痺)		3	6	6	**8**
骨関節疾患(切断、骨粗鬆症、頚椎症、変形性関節症)	14	11	27	33	**43**
頭部外傷	3	1	6	2	**5**
ポリオ、二分脊椎など先天脊髄疾患	—	1	4	0	**0**
脳炎・脳症・低酸素脳症等		0	5	2	**8**
認知症（含アルツハイマー型)	3	5	4	5	**3**
内科疾患（高血圧、心・腎・呼吸器)	4	1	8	13	**17**
その他（癌、加齢による障害)	60	18	29	49	**40**
視覚先天	0	0	6	1	**10**
視覚後天	37	204	51	41	**80**
聴覚先天	5	2	1	3	**5**
聴覚後天	16	12	74	104	**135**
知的障害	6	2	2	4	**13**
発達障害	2	2	6	3	**15**
精神障害	4	3	6	2	**8**
不詳	—	197	2	0	**0**
計	211	510	332	359	**497**

○新規相談者の紹介経路・地域内訳　（件）

紹介経路	世田谷	北沢	玉川	砧	烏山	その他	**計**
保健福祉課	28	34	32	24	24	1	**143**
相談支援機関	19	3	6	2	4	0	**34**
あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）	12	14	9	4	7	0	**46**
介護保険事業者	8	5	5	3	3	0	**24**
区内福祉施設	1	4	1	0	4	1	**11**
医療機関	18	23	4	8	0	0	**50**
本人・家族	40	19	24	11	13	0	**107**
その他	18	25	10	11	18	0	**82**
計	144	127	91	60	73	2	**497**

○専門医相談件数　（件）

診療科目	0～17 歳	18～39 歳	40～64 歳	65 歳～	**計**
整形外科	0	22	31	16	**69**
耳鼻咽喉科	0	1	3	32	**36**
眼科	0	0	3	10	**13**
脳神経内科	0	1	1	12	**14**
精神科	1	6	5	0	**12**
リハビリテーション科	1	1	13	7	**22**
高次脳機能障害	0	3	12	1	**16**
計	2	34	68	78	**182**

○身体障害者手帳診断

ア　手帳診断書作成　（件）

区　分	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
保健センター実施分	34	43	37	38	**39**
医療機関委託分	110	115	144	141	**123**
計	144	158	181	179	**162**

イ　手帳診断書作成の障害別内訳　（件）

区　分	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
肢体不自由	46（6）	47（3）	56（4）	85(11)	**60（6）**
視覚	10（3）	16（5）	33（3）	17（1）	**15（0）**
聴覚平衡	72(23)	75(33)	77(29)	66(26)	**34(30)**
音声言語	6（2）	4（2）	3（1）	2（0）	**2（3）**
内部障害	10（0）	16（0）	12（0）	9（0）	**12（0）**
計	144(34)	158(43)	181(37)	179(38)	**123(39)**

※（　）は保健センター実施分

○知的障害者小グループ評価事業「りすた」 （回）

	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
小グループ評価実施数（実人数）	47(3)	85（14）	165（6）	**196（12）**

○プレステップサポート事業 （回）

	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
相談・評価実施数（実人数）	37(9)	27（17）	59（15）	**73（19）**

○補装具意見書作成 （件）

診療科目	整形外科		耳鼻咽喉科	眼科	**計**
意見書	車椅子	歩行器	補聴器	眼鏡等	**65**
	26	3	35	1	

○補装具相談 （件）

	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
件数	408	469	430	462	**384**

補装具相談主要種目内訳（重複あり） （件）

種　　目	令和 ２年度	令和 ３年度	令和 ４年度	令和 ５年度	**令和 ６年度**
下肢装具 （短下肢・靴型・足底）	168	178	261	281	**254**
歩行補助杖・歩行器	12	2	13	15	**16**
眼鏡	24	76	46	58	**41**
盲人安全杖（白杖）	20	21	71	54	**37**
重度障害者用意思伝達装置	11	16	39	54	**29**
体幹装具	0	0	0	0	**0**

○シーティング相談 （件）

	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
件数	173	175	221	182	**167**

※車椅子各種及び座位保持装置の合計

○福祉用具相談 （件）

	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
件数	161	123	268	210	**283**

○聴力検査・補聴器相談 （件）

	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
件数	91	125	123	157	**168**

○住宅改造相談　（件）

	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
件数	57	73	82	68	**61**

（２）障害者施設等への技術支援

区内の福祉施設等（生活介護、就労継続支援Ｂ型、就労移行支援）に専門職を派遣し、利用者への支援方法や環境整備に関する助言・指導等を行っている。

（回）

	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	公認心理師	視覚障害指導	**計**
回数	176	105	43	95	5	**424**

（３）相談・交流会・ネットワーク・支援者養成

当事者や家族および支援者を対象に、相談会の企画・開催や情報交換の場を提供するなど地域生活への支援を行っている。

また、地域リハビリテーションの推進のため、保健・医療・福祉などに関わる機関・施設の実務者による連絡会の事務局を担い、関係機関との人的ネットワークづくりに取り組んでいる。

① 相談会　**【13 回】**

障害のある当事者や家族向けに、眼科・耳鼻咽喉科・神経内科・精神科の専門医による相談会を行っている。

当事者や家族・支援者等に向けた福祉用具の相談会は、保健医療福祉総合プラザとの共催および福祉人材育成・研修センターの協力で開催している。

相談会	実施日	会場	人数
ふるえ・こわばりの相談会（個別相談）	５月１３日	保健医療福祉総合プラザ　研修室Ａ	4
	１１月１１日	保健医療福祉総合プラザ　研修室Ｃ	2
精神科相談会	７月　３日	保健医療福祉総合プラザ　研修室Ａ	14
	１２月　４日	保健医療福祉総合プラザ　研修室Ｂ	9
きこえの相談会	７月１０日	烏山区民センター　第４会議室	12
	９月　６日	玉川区民会館　第４集会室	13
	１１月１３日	保健医療福祉総合プラザ　研修室Ａ	14
見えにくくなった方の相談会	６月　６日	保健医療福祉総合プラザ　研修室Ｃ	9
	１１月　７日	烏山区民会館　集会室	13
	２月　６日	玉川区民会館　第１集会室	7
プレステップサポート事業相談会	６月　７日	保健医療福祉総合プラザ　研修室Ａ	20
	１２月１３日	保健医療福祉総合プラザ　実習室	11
福祉用具展示相談会	２月　１日	保健医療福祉総合プラザ　１階	250

② 交流会　【12 回】

視覚障害のある方とその家族・支援者等に向けた、見えない・見えにくい方の情報交換広場「スクエア」を月１回開催している。

また、「点字カフェ」は、視覚障害の理解と啓発を目的として保健医療福祉総合プラザとの共催で、実施している。

交流会	実施日	実施回数	延人数
視覚障害の方を中心とした情報交換のための交流会「スクエア」	第 3 火曜	12	225
点字カフェ	第 3 火曜	12	139

③ 関係機関との連絡会　【4 回】

区内の関係機関等との円滑な連携体制を構築するため、各種専門職等の連絡会を開催している。

関係機関との連絡会	実施日	延人数
作業療法士連絡会	７月　２日、３月　７日	51
言語聴覚士連絡会	７月２６日、２月２８日	52

④ 支援者養成事業　【8 回】

福祉人材のスキルの向上を図るとともに、人材の育成を促進することを目的として、障害福祉に携わる区職員や民間事業者等を対象に、関係機関等への講師派遣を行っている。(2 回)

障害福祉従事者研修（Sofuku 講座）(6 回)

派遣先：福祉人材育成・研修センター

令和３年度から講師を派遣している。

講座名	派遣講師	実施日
車椅子の基礎	理学療法士２名	５月３０日
移乗介助とおむつの基礎	理学療法士２名	６月１８日
失語症の理解とコミュニケーション	言語聴覚士	１２月１３日
作業環境の工夫	作業療法士 公認心理師	１１月２１日
嚥下障害の理解とケア	言語聴覚士 理学療法士	１０月１５日
視覚障害の理解	視覚障害指導	２月１０日

2　乳幼児育成相談

乳幼児期の子どもの発達・発育に関わる様々な相談に応じている。相談を行うにあたっては、母子保健、子育て支援、医療、福祉など多岐にわたる領域の関係者・機関と連携している。

（1） 発達・発育に関する相談・評価・助言

乳幼児の発達・発育に関する相談に対して専門評価を行い、その評価結果をもとに個々の相談ケースに応じたサービス等社会資源の情報提供や適切な支援機関等への繋ぎを行っている。

新規相談・評価の流れ

初回電話相談	発達・発育に関する相談
↓	
インテーク（初回面接） 発達検査	主訴や生育歴等の聴き取り……相談員（社会福祉士等） 発達検査……公認心理師等
↓	
聴力検査・言語評価 （運動発達評価）	聴力検査・言語評価等……言語聴覚士 状態に応じて運動発達評価……理学療法士・作業療法士
↓	
専門医相談 行動観察による評価	行動観察・保護者との面接……小児科専門医 遊びを通した評価等……保育士
↓	
カンファレンス・評価会議	支援方針決定……小児科専門医と各専門職
↓	
支援方針の説明	専門評価に基づく子どもの課題や支援方針を相談員が電話にて保護者へ説明
↓	
支援機関への引継ぎ	◎東京リハビリテーションセンター世田谷児童支援事業所ぷらみんぽーと ◎世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」 ◎保健センターでの集団評価（親子支援グループ）及び継続相談 ◎その他の児童発達支援事業所等

（２）初回電話相談の年度別実績

（件）

主　訴	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度								
					0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	その他	計
発達全体の遅れ	50	85	78	61	1	24	26	13	10	2	0	0	**76**
言葉・理解の遅れ	385	426	391	407	0	51	179	156	36	11	0	1	**434**
発音不明瞭	58	91	101	123	0	0	11	12	45	88	12	2	**170**
吃音	33	36	46	34	0	0	3	14	7	25	2	2	**53**
行動・コミュニケーションの問題	113	143	233	252	0	0	40	64	70	37	6	1	**218**
運動の遅れ	13	17	7	27	1	3	4	6	1	3	0	2	**20**
情緒面	1	0	11	1	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
紹介・情報提供	37	64	65	98	7	8	6	8	8	4	1	16	**58**
その他	18	22	37	65	8	12	10	4	15	31	4	19	**103**
計	**708**	**884**	**969**	**1068**	**17**	**98**	**279**	**277**	**192**	**201**	**25**	**43**	**1132**

初回電話相談の紹介経路・地域別相談件数内訳

（件）

紹介経路	世田谷	北沢	玉川	砧	烏山	その他	計
健康づくり課	118	116	111	141	54	2	**542**
区の機関	53	13	28	41	5	22	**162**
病院・訪問看護	6	6	12	5	5	5	**39**
世田谷区発達障害相談療育センターげんき・発達相談室	7	6	18	6	5	2	**44**
東京リハビリテーションセンター世田谷児童支援事業所ぷらみんぽーと	4	3	1	0	0	2	**10**
他の療育機関	0	5	2	0	4	0	**11**
幼稚園・保育園	12	16	13	18	4	10	**73**
保護者自身	69	35	33	38	28	16	**219**
その他	1	1	11	2	7	10	**32**
計	**270**	**201**	**229**	**251**	**112**	**69**	**1132**

（３）インテーク（初回面接）の実績

（人）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	計
インテーク	20	23	25	27	23	23	28	24	29	29	28	24	**303**

インテーク（初回面接）後の専門医相談における新規相談の障害分類の詳細　（人）

障害分類		令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度															
						合計	男子年齢別								女子年齢別						
							小計	0	1	2	3	4	5	6	小計	0	1	2	3	4	5	6
正常範囲		4	5	4	9	**5**	**3**	0	0	0	0	0	3	0	**2**	0	0	0	0	0	2	0
精神遅滞（MR）	精神遅滞（境界）	26	12	6	8	**7**	**5**	0	0	4	1	0	0	0	**2**	0	0	0	1	1	0	0
	精神遅滞（軽度）	16	17	6	5	**9**	**4**	0	0	1	3	0	0	0	**5**	0	0	0	4	1	0	0
	精神遅滞(中度)	1	2	0	0	**2**	**1**	0	0	0	0	1	0	0	**1**	0	0	0	1	0	0	0
	精神遅滞(重度)	1	1	1	0	**0**	**0**	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0	0	0	0	0	0	0
	精神遅滞(最重度)	0	0	0	0	**0**	**0**	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0	0	0	0	0	0	0
運動発達遅滞	運動発達遅滞	0	2	0	2	**0**	**0**	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0	0	0	0	0	0	0
	精神運動発達遅滞	13	18	8	3	**2**	**0**	0	0	0	0	0	0	0	**2**	0	2	0	0	0	0	0
	その他	0	1	0	1	**0**	**0**	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0	0	0	0	0	0	0
感覚障害	聴覚障害	0	0	0	1	**0**	**0**	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0	0	0	0	0	0	0
	視覚障害	0	0	0	0	**0**	**0**	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	**0**	**0**	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0	0	0	0	0	0	0
言語障害	構音障害	20	16	22	23	**22**	**11**	0	0	0	2	2	5	2	**11**	0	0	0	0	2	8	1
	吃音症	10	5	12	12	**8**	**6**	0	0	0	1	0	5	0	**2**	0	0	0	1	0	1	0
	表出性言語障害	3	3	4	0	**5**	**4**	0	0	4	0	0	0	0	**1**	0	0	1	0	0	0	0
	受容表出混合性言語障害	3	8	4	4	**8**	**7**	0	0	3	3	0	0	1	**1**	0	0	0	0	1	0	0
	その他	1	1	3	0	**0**	**0**	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0	0	0	0	0	0	0
発達障害	自閉スペクトラム症	200	239	212	256	**226**	**170**	0	4	65	61	29	10	1	**56**	0	0	22	23	6	5	0
	ADHD	6	6	8	6	**5**	**2**	0	0	0	2	0	0	0	**3**	0	0	2	0	0	0	1
	その他	3	0	2	0	**0**	**0**	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0	0	0	0	0	0	0
その他	情緒不安定	0	0	0	0	**1**	**0**	0	0	0	0	0	0	0	**1**	0	0	1	0	0	0	0
	選択性緘黙	0	1	0	0	**0**	**0**	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0	0	0	0	0	0	0
	分離不安障害	0	0	0	0	**0**	**0**	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	**0**	**0**	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0	0	0	0	0	0	0
相談中止等		1	4	2	8	**3**	**3**	0	0	0	2	1	0	0	**1**	0	0	0	1	0	0	0
計		308	341	294	338	**303**	**216**	**0**	**4**	**77**	**75**	**33**	**23**	**4**	**88**	**0**	**2**	**26**	**31**	**11**	**16**	**2**

（４）個別評価の実績と対応職種別の詳細

① 個別評価の実績　（人）

区分		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	**計**
個別評価延人数		94	87	94	93	86	88	100	89	91	86	98	101	**1,107 (522)**
対応職種内訳	公認心理師等	21	23	26	27	24	25	29	25	29	29	28	24	**310**
	言語聴覚士(ＳＴ)	23	21	25	26	19	21	28	22	26	21	28	32	**292**
	作業療法士(ＯＴ) 理学療法士(ＰＴ)	3	1	1	2	3	2	5	4	1	1	1	3	**27**
	専門医	47	42	42	38	39	40	38	38	35	35	41	42	**477**

※（　）内は実人数

② 個別評価における専門医相談の年度別実績　（人）

診療科目	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
小児科	497(304)	522(322)	487(323)	487(318)	**477(294) 実人数 462**

※（　）は新規相談人数

③ 公認心理師等による相談・評価

ア　心理評価

下記１と２の心理検査を組み合わせ、心理評価を行っている。

	検査	目　的
1	新版Ｋ式発達検査 2020	運動面や認知面、言語面から子どもの発達を評価する。
	田中ビネー知能検査Ⅴ	記憶力、弁別力、推理力などのさまざまな能力の基礎となる一般知能を測定する。
2	遠城寺式分析的発達検査法	移動運動、手の運動、基本的習慣、対人関係、発語、言語理解の６つの領域から発達を評価する。
	S-M 社会生活能力検査 第３版	子どもの生活場面について、身辺自立、移動、作業、コミュニケーション、集団参加の６つの領域から発達を評価する。

イ　心理相談

初回電話相談及び親子支援グループの利用中または終了後に、必要に応じて助言や地域支援の情報提供等の対応を行っている。

④ 言語聴覚士（ＳＴ）による相談・評価

ア　ＳＴ評価

※子どもの状態によって検査を組み合わせて実施している。

区分	検査バッテリー	目　的
聴　　覚	COR／Peep Show／Play／ 標準純音聴力検査 ティンパノメトリー	ことばの発達に影響を及ぼす聴力低下や中耳炎の有無を確認する。
言語表出・ 言語理解・	国リハ式〈S－S 法〉 言語発達遅滞検査	受信（理解）と発信（表現）の様子を確認する。

構音・吃音	LC―R 言語・コミュニケーション 発達スケール改訂版	言語表出、言語理解、コミュニケーション面について確認する。
	質問-応答関係検査	会話能力を確認する。
	ことばのテストえほん	言葉の理解力、ささやき声での言葉を聞き分ける力、発音・声・話し方等表現能力を確認する。
	絵画語い発達検査（PVT－R）	語いの理解力を確認する。
	構音検査	構音(発音)の誤りの有無や発声発語器官の運動の状態を確認する。
	吃音検査法	吃音(きつおん)を客観的に評価し、症状を分析する。
コミュニケーション態度	検査場面の様子を観察	アイコンタクトの有無､対人意識の有無､要求の方法､応答性などのコミュニケーション態度を確認する。
問　　診	家族歴(吃音･難聴の有無など)	対応の参考とするため確認する。

イ　ＳＴ相談

初回電話相談及び親子支援グループの利用中または終了後、必要に応じて言語・発音・吃音の相談及び助言、地域支援の情報提供等の対応を行っている。

⑤ 作業療法士（ＯＴ）による相談・評価

ア　ＯＴ評価

インテーク後の心理評価(発達検査)において、認知や言語領域に比して極端に運動の値が低い、感覚に問題（可能性も含め）がある、協調運動のぎこちなさがある等のケースを対象に運動評価を行っている。

・基本的な運動（筋緊張、姿勢反応)、複雑な運動（運動企画、協調性など）
　※運動企画：身体の動かし方を組み立て実行する働き
・上肢機能、道具の操作性
・感覚機能（触覚、視知覚、固有受容覚、前庭感覚など）
・日常生活動作、認知機能、行動の状態など

イ　ＯＴ相談

初回電話相談及び親子支援グループの利用中または終了後、必要に応じて協調運動・感覚機能等の課題に対する相談、助言、地域支援の情報提供等の対応を行っている。

⑥ 理学療法士（ＰＴ）による相談・評価

ア　ＰＴ評価

インテーク後、姿勢、運動機能に課題があるケースを対象に運動評価を行っている。

・座位及び移動を中心とした粗大運動
　※粗大運動・・座る、立つ、歩くなど日常生活を送るために必要な動き
・筋力、バランス、運動企画など

イ　ＰＴ相談

粗大運動の発達についての相談及び地域支援の情報提供等の対応を行っている。

⑦ 保育士による相談・評価

ア　保育士評価

専門医相談の中で、遊びを通して子どもの様子から下記の視点に基づき評価している。

・視線を合わせる	・声掛けへの意識
・物の提示への気づき	・応じる姿勢
・言葉かけや視覚提示による気持ちや行動の切り替え	

イ　保育相談

初回電話相談及び親子支援グループ利用中または終了後、必要に応じて子どもへの関わりや特性の理解を深める助言を行う。また、幼稚園等と連携を図り、子どもへの関わりや対応を共有し、個別配慮及び集団適応を目的とした助言、地域支援の情報提供等の対応を行っている。

（５）集団評価（親子支援グループ）

個別評価後のカンファレンス、評価会議での支援方針に基づき、児童発達支援による療育ではなく家族支援が必要な親子を対象に、保育士を中心に多職種が協働して集団評価（親子支援グループ）を実施している。

① 集団評価（親子支援グループ）の実績　（組）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	**計**
集団評価延組数	22	27	15	31	45	34	16	16	8	32	25	25	**296**

② 目的

集団活動を通して、子どもの評価を行う。保護者については、子どもの特性を理解し対応方法を学び、自身のメンタルヘルスの増進を図る。

③ グループの内容

・1グループ6組の親子。期間は、3か月間（毎週実施）または6か月間（隔週実施）。
・親子に対する10回のプログラムと3か月後のフォローアップで構成。

④ プログラムの内容

ア　子どもの集団活動（集団評価）

主に室内遊び・一斉活動・運動遊びまたは製作などの机上課題の3場面に分けて子どもの評価を行う。興味の偏りや遊びの狭さ、切り替えや指示に応じる姿勢、他児とのやり取りや共有に困難さを抱える子どもたちに対し、理解・表出・行動の統制、対人関係等個々に合わせた課題を保育士と専門職が連携し、子どもの適応状況に応じて段階的に支援を行っている。

イ　実績

グループ名・曜日	回数等	定員（組）	参加実組数	参加延組数
あ　　お・火曜日午前	1期～4期 全10回 各1時間30分	5	18	172
おれんじ・火曜日午後		5	9	78
み ど り・水曜日午後		5	5	46
計			**32**	**296**

※令和6年度　3か月後のフォローアップ参加：27組

ウ　保護者教室

初回に「自己紹介」を行い、共通の話題で子どもの課題について話ができるような環境を整える。2回目以降は、テーマを用意し、行動特性や対応について理解を深めていく。

また、子どもの集団活動を隣室からマジックミラー越しに観察しながら、子どもの様子や変化を保護者にフィードバックし、行動の背景や対応方法の共有化を図り、発達段階や行動特性を理解して日常の育児に活用できるよう取り組んでいる。

テーマ	内　容
自己紹介	悩みの共有
自閉スペクトラム症/発達障害とは	基本的な知識
行動のマネジメント	自閉スペクトラム症の行動の背景から対応を考える
就学に向けて	就学相談・学校選びについて
言語コミュニケーションについて	言葉の発達、言葉を育てる力、肯定的な言葉かけ
感覚と運動について	発達を支える運動経験・感覚遊び・感覚特性について
生活習慣について	食事・着替え・排泄・睡眠
就園に向けて	幼稚園・保育園選びや集団への伝え方
にこにこブック作成（保護者が子どもの特性や対応を冊子にまとめる） 上記の保護者教室を通し、保護者が記入。各専門職が保護者に特性の理解の促しや子どもへの対応・助言を行う。	

※上記表にあるレクチャーに加えて、解説を伴う行動観察を並行して行うことにより、子どもの姿や行動の背景の共有を図り、保護者の子どもへの理解を促進させる。

エ　おためしグループ

目的：集団活動を通し、子どもの姿や他者との関わりについて、専門職が評価する。保護者には、専門医相談後の受容や育児不安に対する相談及び対応について助言を行う。子どもの発達段階に合わせて次期親子支援グループを案内している。

月	実施回数	定員（組）	参加実組数
5	1	5	4
6	1		4
9	1		3
11	1		2
12	1		3
1	1		1
計	**6**		**17**

（６）支援機関への引継ぎ

支援方針に基づき、児童発達支援事業所へ引き継いでいる。

①支援方針内訳　（人）

支援方針		計
うめとぴあ	東京リハビリテーションセンター世田谷　児童支援事業所ぷらみんぽーと	209
	保健センター乳幼児育成相談（集団評価・継続相談等）	41
	小　　計	250
世田谷区発達障害相談・療育センターげんき		39
その他（中断・転出・教育相談・クリニック等）		14
合　　計		**303**

②拠点施設うめとぴあでの支援方針内訳　（人）

支援方針 / 支援機関	保育グループ	理学療法	作業療法	言語療法	心理	相談	**計**
東京リハビリテーションセンター世田谷 児童支援事業所ぷらみんぽーと	141	3	3	25	37		**209**
保健センター乳幼児育成相談	21					20	**41**
計	**162**	**3**	**3**	**25**	**37**	**20**	**250**

※令和６年度より乳幼児育成相談での各専門職による相談をなくし、継続相談に統一した。
継続相談では、一定の期間を設け、必要に応じて相談及び評価を実施して子どもや保護者の様子を確認した上で終了または適切な支援の情報提供を行っている。

（７）継続電話相談の実績

支援方針の決定後は、各支援機関（ぷらみんぽーと、げんき）に引き継ぐことで終了となるが、支援先が決定しない場合や療育の必要性はないが経過観察が必要な場合、保護者の相談内容に応じて社会福祉士または各専門職が状況確認や助言、情報提供などを継続的に行っている。また、保護者の同意のもと関係機関（幼稚園・児童発達支援事業所・区等）と連携を図っている。

※令和６年度の継続相談数は 547 件、その他、幼稚園・保育園との連携 13 件

（８）地域支援

① 1歳６か月親子支援グループ事業（ぽんぽんキッズ）への専門職の派遣

総合支所健康づくり課 1 歳 6 か月親子支援グループ事業に作業療法士、言語聴覚士を派遣し、身体やことばの発達に関する相談、助言を行っている。

②区内保育園、幼稚園、民間障害児通所支援施設等に専門職を派遣

子どもへの関わりや環境調整に関する支援を通して、施設職員の支援技術の向上を図るとともに、施設全体として子どもの発達や困り感への理解を深めることを目的に、巡回による技術援助指導を行っている。

（回）

職種 / 訪問施設等	公認心理師	言語聴覚士	作業療法士	理学療法士	計
保育園・幼稚園	6	0	0	0	**6**
障害児通所施設	2	3	1	11	**17**
1歳6か月 親子支援グループ	0	10	19	0	**29**
計	**8**	**13**	**20**	**11**	**52**

※上記以外、幼稚園・保育園や障害児通所施設等と電話での連携等を行っている。
計 52 回については下記（11）の「区健康づくり課乳幼児健診への言語聴覚士の派遣」を２回試行したことを加えると、地域支援実績としては 54 回となる。

（９）児童関係機関との連携　【49 回】

各種連絡会に参加し、情報共有・意見交換を行っている。

① げんき・うめとぴあ連絡会（区、保健センター、東京リハビリテーションセンター世田谷児童支援事業所「ぷらみんぽーと」、世田谷区発達障害相談療育センター「げんき」）
② うめとぴあ連絡会（区、保健センター、東京リハビリテーションセンター世田谷児童支援事業所「ぷらみんぽーと」）
③ うめとぴあ連携ミーティング（保健センター、東京リハビリテーションセンター世田谷児童支援事業所「ぷらみんぽーと」）
④ 区乳幼児期支援機関連絡会等（母子保健、子育て支援等）

（１０）児童館における「出前型発達相談」

区障害保健福祉課･児童課との協議に基づき、令和４年度・５年度の試行結果を踏まえ、令和６年度より本格実施した。乳幼児育成相談の専門職(社会福祉士･公認心理師等･言語聴覚士・作業療法士・保育士)を児童館に派遣し、『ことばとうんどうのおはなし』についてのミニ講座を実施した後、子どもの発達発育に対する相談を行っている。

目　的　　相談支援機能の強化、児童館職員のスキルアップ

派遣先

児童館名	派遣月日	参加組数
松沢児童館	令和６年 ７月 ２日（火）	27
等々力児童館	令和６年 ７月 ３日（水） 令和７年 １月15日（水）	10 4
代田児童館	令和６年 ９月 ４日（水） 令和７年 ２月26日（水）	13 11
上北沢児童館	令和６年 ９月12日（木）	13
弦巻児童館	令和６年 ９月18日（水）	10
烏山児童館	令和６年 ９月25日（水）	5
上町児童館	令和６年11月19日（火）	11
粕谷児童館	令和６年11月20日（水）	25
新町児童館	令和７年 ２月18日（火）	12
合計	**（9 館内 2 館は 2 回）計 11 回**	**計 141**

（１１）区健康づくり課乳幼児健診への専門職派遣（試行）

区健康づくり課が行う、乳幼児健診（1 歳半・3 歳児）において、言語聴覚士が配置されていない世田谷総合支所健康づくり課と北沢総合支所健康づくり課へ職員を派遣し、相談対応を行った。

目　的　乳幼児健診における相談対応の充実を図り、保護者の子どもの発達や関わり方への気づきを促す。

派遣先　世田谷総合支所健康づくり課、北沢総合支所健康づくり課

日　程　１月２８日（火）・ １月２２日(水)

３　高次脳機能障害相談支援

高次脳機能障害に関する個別の相談・評価を行うほか、小グループでの評価や一定期間の継続した相談支援など、当事者及びその家族・支援者等に対する支援を行っている。

また、高次脳機能障害専門の医師による区民向け講演会・相談会と共に、高次脳機能障害者ガイドヘルパー養成講座、失語症会話パートナー養成講座など、支援者養成を行っている。

（１） 専門相談・評価

① 相談・評価

高次脳機能に何らかの障害がある、あるいはその疑いがある方を対象に、専門医、作業療法士、言語聴覚士、公認心理師等が相談及び総合的な評価（神経心理学的検査、ＡＤＬ（日常生活動作）・ＩＡＤＬ（手段的日常生活動作）評価等）を行い、リハビリテーションや生活改善についての専門的な助言や情報提供を行っている。

令和６年度の相談・評価の実人数は 70 人、延相談・評価件数は 602 件であった。

個別相談・評価の内容内訳　（件）

日常生活・社会生活	評価	就労	医療	制度・手帳	訓練・施設等情報	その他	**合計**
201	60	101	40	73	103	24	**602**

相談・評価を行った上記の 70 人のほか電話のみの相談が 38 人あり、合わせた 108 人の紹介経路の内訳は以下のとおりである。

（人）

家族	医療機関	相談支援機関	介護保険	本人	行政	ぽーと	就労支援機関	その他	**合計**
25	24	11	12	20	11	1	0	4	**108**

② 小グループ評価（職業評価プログラム「コンパス」）

小グループで作業評価などを行い、就労するために必要なことや、当事者に合った補完手段の提案等を、週３回（月・水・金曜日）、期間はおおむね４か月で実施していた。区と東京リハビリテーションセンター世田谷（以下：東リハ）と拠点機能の検討を重ね、拠点の評価機能の補完的役割は全うしたため、令和６年度末で廃止とした。なお、専門職による個別の相談評価は継続して実施している。

区　分	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
実人数	5	6	7	8	**3**
延相談・評価件数	196	166	192	273	**64**

※プログラム終了後の状況等：就労移行支援事業所１人、自立訓練１人、再就職１人

（２）支援者養成

①高次脳機能障害者ガイドヘルパー養成講座（2 期実施）

	期間	修了者数
前期	５月２２日～　６月２８日　全6回	7
後期	１０月２３日～１１月２９日　全6回	6

②失語症会話パートナー養成講座

地域の会話パートナー（ボランティア）を養成することを目的として、講座を開催している。

開催日		修了者数
センター	９月１９日～ １月１６日　　全5回	8
烏山地域	８月２２日～ １月２３日　　全5回	3

③高次脳機能障害者ガイドヘルパー研修会　**【１回】**

開催日	内容・講師	人数
２月２８日	高次脳機能障害者ガイドヘルパー養成講座修了者や支援者を対象に、支援技術などのスキルアップを目的に実施 講師・助言者：ケアステーション連　今井 雅子　氏 保健センター職員（公認心理師）	11

④失語症会話パートナー養成講座フォローアップ研修　**【２回】**

開催日	内容・講師	人数
９月２５日	失語症会話パートナー養成講座修了者の活動先である、失語症のある人が集う自主グループの周知を目的に、区内の失語症当事者、ご家族、支援者に向けた失語症自主グループ活動報告会をフォローアップ研修の一環として実施 （１）自主グループづくりの経緯と効果について （２）自主グループからの報告	36
２月２０日	（１） 講義：「中途障害のある方への心理を考える」 講師：保健センター職員（公認心理士） （２）交流会：活動する中で思っているあれこれを共有しましょう	25

⑤失語症者向け意思疎通支援者養成講座

期間	修了者数
６月６日　～１１月７日　全6回	1

⑥高次脳機能障害者支援者地域研修会　**【２回】**

高次脳機能障害者の相談支援体制等に関する調査研究(令和３年度)の重点事項の「当事者と家族の地域生活を支える機能を５地域に整備」、「高次脳機能障害に関する支援者向けの研修の充実」の取り組みとして、支援者に向けた研修会を実施している。より効果的な実施方法を検討し、令和６年度では、ケアマネジャー及びあんしんすこやかセンター等介護保険事業者を対象に地域研修会を実施した。また、基幹相談支援センターのテーマ別研修で、保健センター職員が講師およびグループワークのファシリテーターを担当した。

開催日	内容・講師	人数
基幹相談支援センターテーマ別研修 １１月１５日	「高次脳機能障害のある方が地域で安心して暮らすために」	26
地域研修会 ２月　７日	教えて！高次脳機能障害 ～障害福祉サービス制度＆事例紹介～ 講師：東京リハビリテーションセンター世田谷アドバイザー 山口 加代子　氏 ※研修会事前事後の学びとして、高次脳機能障害の症状等に関する基礎研修を動画配信で行った。	6

（３）区民向け相談会・講演会

開催日	内容・講師	人数
講演会 １０月　４日	病気や事故などで脳が損傷した後の気になる症状について 講師：昭和大学医学部リハビリテーション医学講座准教授 はしもとクリニック経堂理事長　　橋本 圭司　医師	39
相談会 １２月１２日	「語り合おう～それぞれの思い、それぞれの悩み～」 講師・助言者：東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科　教授　渡邉 修　医師	10

（４）ネットワーク・地域支援

①世田谷区高次脳機能障害者関係施設連絡会

当事者及び支援者の顔の見える関係を築き、区内関係機関の円滑な連携やネットワークの構築を図るため開催している。

令和６年度はオンラインと対面のハイブリッド形式で実施したが、専門アドバイザーや区と相談し、支援の連携強化を目指し、より効果的な実施方法などの見直しを行うこととし、第２回を休会とした。

開催日	第１回	第２回
	５月２４日	休会
参加施設・人数	33 施設 45 名	―

②失語症サロン　**【２４回】**

失語症サロンは、保健センターが養成した「失語症会話パートナー」と失語症のある方が、出会い、支援を受けながら会話を楽しむ場として提供している。

毎月第３水曜日に保健医療福祉総合プラザ内で開催する他に、玉川・烏山の２地域でも開催している。

（人）

会場	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	**合計**
総合プラザ	27	26	33	28	29	24	24	27	33	25	23	21	**320**
玉川地域	20	—	9	—	12	—	6	—	5	—	3	—	**55**
烏山地域	—	7	—	8	—	8	—	6	—	10	—	8	**47**

（５）失語症者向け意思疎通支援者事業（区委託）

失語症者の意思疎通を支援するため、障害者総合支援法に基づくサービスとして世田谷区の委託を受け、失語症当事者と意思疎通支援者のマッチング、支援者の派遣などを行っている。

（回）

	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
支援者派遣回数	7	15	20	44	**70**

Ⅱ　こころの健康支援事業（区指定管理）

（１）夜間休日等こころの電話相談

こころの健康づくりに関して気軽に相談できる窓口として、平日夜間及び休日の電話相談を実施している。相談は、精神保健福祉士等による専門相談と電話相談の研修を受けた障害当事者が対応するピア相談の時間帯を設けている。

相談内容によって、継続的な支援が必要な場合は、区の相談窓口（総合支所健康づくり課等）につないでいる。

実施曜日 時　　間	月・火・水・木曜日	午後５時～７時	ピア相談
		午後７時～１０時	専門相談
	土曜日及び祝日にあたる月・火・水・木曜日	午後２時～４時	ピア相談
		午後４時～８時	専門相談

相談実施状況

年度	実施回数（回）			相談件数（件）		
	月・火・水・木曜日※	土曜日及び祝日にあたる月･火･水・木曜日※	計	専門相談	ピア相談	計
令和３年度	143	62	205	1,692	829	2,521
令和４年度	172	62	234	2,192	1,139	3,331
令和５年度	196	61	257	3,902	1,275	5,177
令和６年度	**193**	**64**	**257**	**4,068**	**1,186**	**5,254**

※火曜日は令和４年９月から実施

（２）ピア相談員の養成

電話相談に従事するピア相談員を養成するため、令和２年度からピア相談員養成講座（養成期間２年）を行っている。令和６年度はピア相談員養成講座を休止し、これまで養成したピア相談のスキルアップを目的とした研修会を１回、ピア同士の交流会等を８回実施している。

事業実績

年度	修了者数	
	入門編・基礎編	応用編
令和３年度	―	5
令和４年度	6	―
令和５年度	―	4
令和６年度	**―**	**―**

（3）普及・啓発

こころの健康に関する知識の普及・啓発のため、区民向けの講演会等を実施している。

事業実績

開催日	タイトル	講師	人数	備考
６月　７日 ２１日	子育ちに活かすコーチング（全２回）	NPO 法人ハートフルコミュニケーション 副理事長　平松 容見子	57 42	オンライン
７月１０日	母子カプセル（母子密着）	母娘関係改善カウンセラー メンタル心理士　横山　　真香	86	オンライン
１０月１０日	統合失調症の症状と回復	東京都立松沢病院 副院長　針間　　博彦	93	世田谷区民会館 集会室
１１月　１日 １１月１３日	依存症セミナー（全２回）	昭和大学附属烏山病院 准教授　常岡　　俊昭 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部長・薬物依存センター センター長　松本　　俊彦	94 95	烏山区民会館
１２月１２日	躁うつと付き合うために	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 名誉所長　金　　吉晴	85	世田谷区民会館 集会室
２月１３日	セルフ・コンパッション	臨済宗建長寺派 林香寺 住職 RESM 新横浜睡眠･呼吸メディカルケアクリニック 副院長　川野　泰周	146	オンライン

（4）こころの健康情報コーナー

保健センター「こころとからだの保健室ポルタ」内に、こころの健康に関する書籍等の閲覧ができる「こころの健康情報コーナー」を開設し、区民の利用に提供している。

（5）人材育成

家庭や地域などで、身近な人の自殺リスクにつながる悩みに気づき、声をかけ、話を聞き、必要な支援につなぐことができるよう、「ゲートキーパー講座」を実施した。令和６年度は地域や職場でメンタルヘルスの問題を抱える人や家族に対して傾聴を中心とした支援を行うこころのサポーターを養成する研修を実施した。

事業実績

開催日	タイトル	講師	人数	備考
９月　９日	いのちの門番 ゲートキーパー講座（一般向け講座）	（独法）国立病院機構東京医療センター 医師　新福　正機	54	オンライン
３月　５日	こころのサポーター養成研修	東京都立松沢病院 看護師　山口　　球	51	梅丘パークホール　集会室

Ⅲ　その他の技術提供事業（自主）

１　住宅改修アドバイザー

介護保険の住宅改修費の支給を受けて住宅の改修を行う家庭を、アドバイザー（理学療法士、作業療法士等）が訪問し、自宅で安全かつ便利な生活ができるよう、相談や助言を行っている。

（回）

	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
回数	105	100	103	112	**88**

２　福祉施設等技術支援

障害のある方が入所・通所している高齢福祉施設に専門職員を派遣し、施設職員に対して、障害特性の理解や介助の留意点等について技術的な助言指導を行っている。

（回）

区分	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	**令和６年度**
専門職派遣	11	4	2	24	**46**
講師派遣		5	6	1	**6**

※派遣施設　フレンズケアセンター、在宅総合ケアセンター成城、桜上水福祉園等

第六　地域連携、保健医療福祉総合プラザ内施設との連携事業

大学をはじめとする区内の学校等の実習受入れや、大学と連携した講習会を開催したほか、健康づくり活動を２年継続している自主活動団体について、総合プラザ１階「ふれあいカフェうめとぴあ」内に専用コーナーを設け、活動紹介を行った。

また、保健医療福祉の拠点「うめとぴあ」内の各施設が協働し、１０月に「うめとぴあフェスタ」を開催し、保健センターの企画には 1,500 名を超える方が来場した。健康意識の向上と事業全般を広く区民に知ってもらう機会となった。その他にも、うめとぴあを区民に周知するため、総合プラザ内施設と連携し、様々な事業を実施した。

事業項目	令和６年度	
	内　　容	期　日
実　習　受　入	世田谷区医師会立看護高等専修学校実習受入	令和６年６月～１１月 （延べ 48 日）
	東京農業大学実習受入	令和６年１０月、１１月 （各月延べ 10 日）
	武蔵野大学　ヘルスプロモーション実習受入	令和６年９月～１０月 （延べ４日）
	昭和大学実習受入	令和６年６月 （延べ７日）
大学との連携	駒澤大学仏教学部／坐禅講座講師派遣	令和６年１０月　３日 令和６年１０月１２日
地域健康づくりグループとの交流	長期継続グループの表彰（１７団体）	令和６年１０月１９日
うめとぴあ内施設連携	うめとぴあフェスタ 保健センター施設見学、健康チェック、福祉用具体験、マシントレーニング体験、よろず健康相談	令和６年１０月１９日
	福祉用具展示相談会	令和７年２月１日
	映画「ピア～まちをつなぐもの～」上映会	令和７年２月７．８日
	うめとぴあツアーウォーク	令和６年５月１３日 令和６年９月　９日 令和７年２月１１日

第七　サービスの向上（自主）

Ⅰ　広報事業

保健センターでは、区民の健康のための情報発信を重要な使命ととらえ、情報紙「げんき人」や財団のホームページ等で事業を PR し、検査や健康に関する正しい知識を提供している。また、がん検診、健康増進及び健康教育事業に関する事業案内や教室等の募集については、毎月 1 日号・15 日号の区のおしらせ「せたがや」に掲載している。

1　保健センター情報紙「げんき人」

健康づくりをはじめとする区民に有用な情報の発信を目的に、保健センター情報紙「げんき人」を発行（タブロイド判　令和 6 年度　各号 160,000 部）し、新聞折り込みや区内公共施設の窓口を通じて区民に配布している。

令和 6 年度発行状況

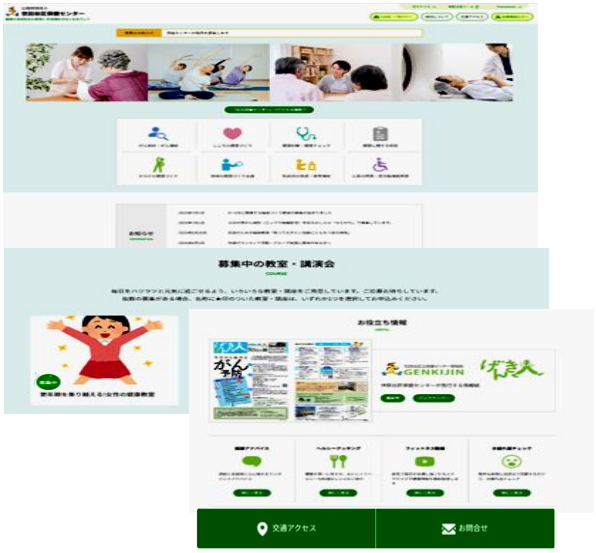
	発行年月日	内　　容
第 118 号	令和5年　4月15日	あなたのまちで健康づくり
第 119 号	令和5年　8月　1日	気になる脳の症状　病気や事故などで脳が破損した後に
第 120 号	令和5年10月　1日	健診結果を放置しない！ライフステージに応じた健康づくり
第 121 号	令和6年　1月15日	毎日の睡眠に満足していますか？

2　保健センターホームページ

保健センターでは、財団ホームページを通じ、広く健康情報や各種の事業案内を提供している。

利用者がわかりやすい構成でユニバーサルデザインに基づき作られたサイト内には閲覧支援ツール等を備え、スマートフォン上での専用表示を可能とし、誰でも使いやすいサイトへと進化させている。

https://www.setagayaku-hokencenter.or.jp/



3　情報の様々な発信

「エフエム世田谷」では毎週水曜午前の番組「Bee Up！Setagaya」の中で、がん検診の勧めや健康教室の紹介、季節に応じた健やかに過ごすための工夫のワンポイントや各種イベント等の情報発信を行っている。

また、区の地域広報板や世田谷線駅構内にポスター掲示を行い、区のおしらせ「せたがや」とともに X（旧 Twitter）や YouTube を活用した情報発信を行い幅広く事業の情報を提供している。

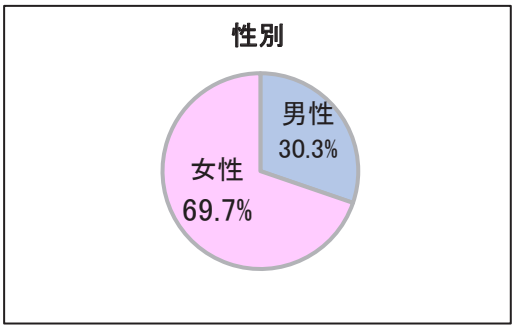
Ⅱ　利用者満足度調査

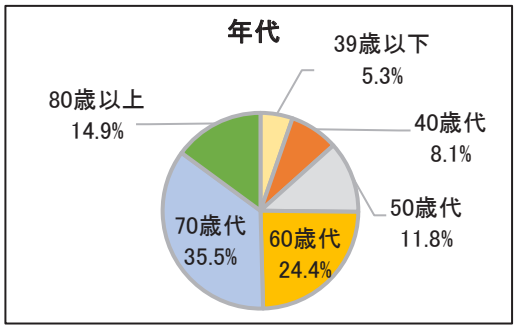
1　医務課事業　令和６年度の調査結果（抜粋）

実施期間　令和６年３月
調査対象　事業利用者（がん検診、医療事業、健康増進事業、健康診断等料金規程事業）
実施方法　事業別（来所目的別）に所内にアンケート用紙と回答箱を設置
実施場所　世田谷区立保健センター
回答件数　1283 件（回収率 96.5%　/　配布 1330 枚）
集計方法　下記グラフは、事業別に集計したものを事業概要用に集約（※未記入は含まない）

利用者について

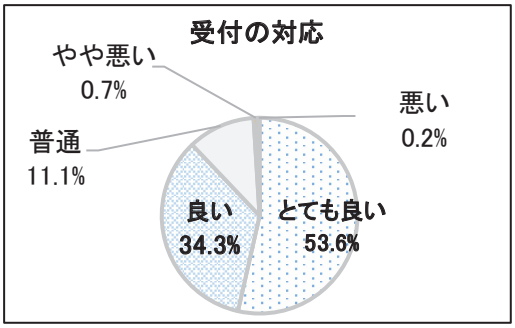
利用者の 3 分の 2 が女性であった。70 歳代が約３割、次いで 60 歳代の利用であった。

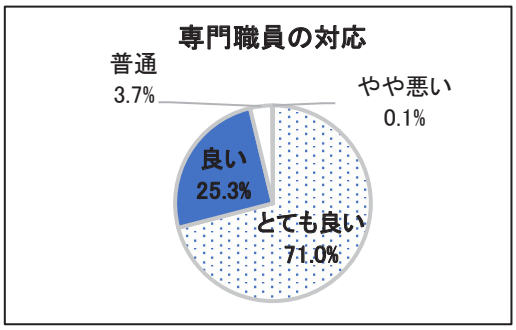




職員の対応について

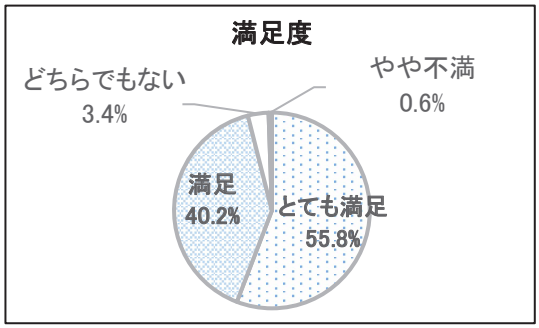
約９割の方が受付の対応は良いと回答し、９割以上の方が専門職員の対応は良いと回答した。

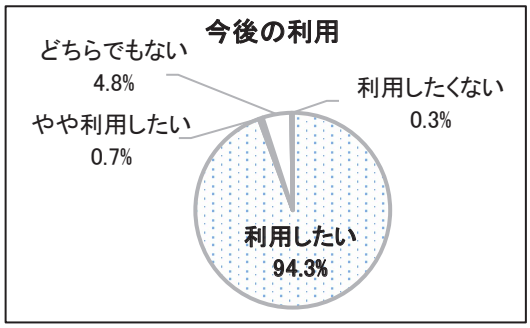




満足度と今後の利用について

９割以上の方が満足と回答し、９割以上の方が今後も利用したいと回答した。



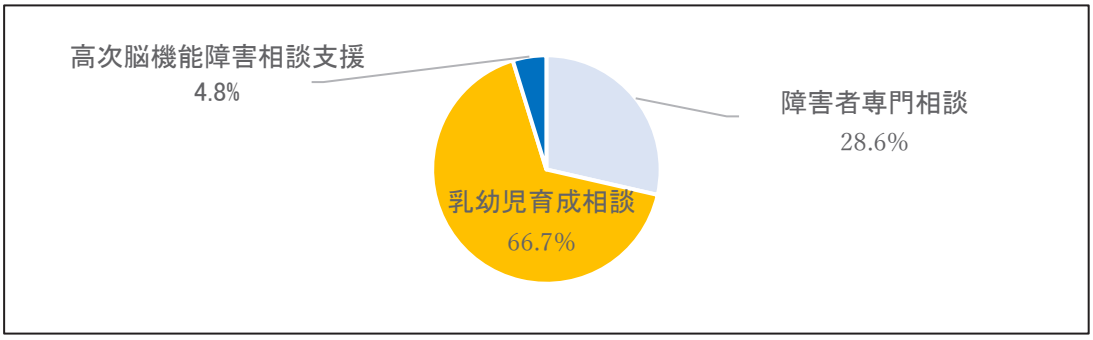


2　専門相談課事業　令和６年度の調査結果（抜粋）

実施期間　令和６年３月
調査対象　事業利用者（障害者専門相談、乳幼児育成相談、高次脳機能障害相談支援）
実施方法　来所時にアンケート用紙配布、所内に設置の回収箱で回収
実施場所　世田谷区立保健センター
回答件数　43 件（回収率 67.2% / 配布 64 枚）
※事業概要用に抜粋（※未記入は含まない）

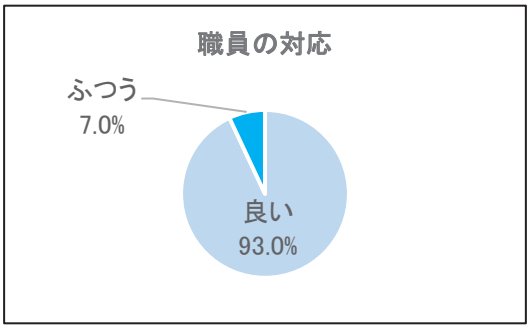
利用事業について

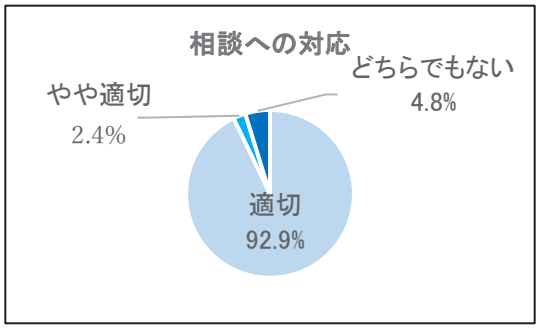
障害者専門相談、乳幼児育成相談の利用が各々約４割、高次脳機能障害相談支援の利用が約１割であった。



対応について

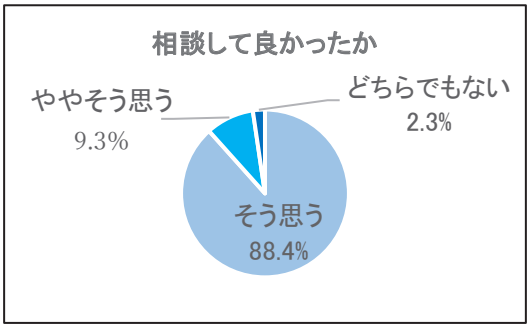
９割強の方が職員の対応は良い、相談への対応は適切と回答した。

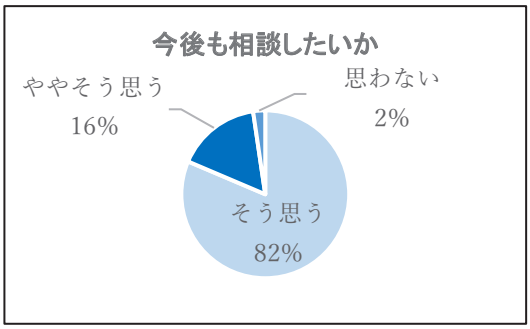




専門相談の印象

９割強の方が、相談して良かった、今後も相談したいと思うと回答した。





Ⅲ　苦情処理対応ほか

保健センターの一層のサービス向上にむけ、事業や施設・設備に対する利用者の意見・要望を収集するための「ご意見箱」を設置している。寄せられた意見等に対しては、「ご意見箱」設置場所に対応方法や改善内容などの回答を掲示した。

実 施 方 法　　所内２か所（２階受付前・３階）に記入用紙と回収箱を設置
投 書 総 数　　３１件
意 見 内 容　　・事業内容に関するご要望
　　・２階受付待合室の利用者マナーのご意見等